佐久市埋蔵文化財

年　報　1

平成２年度

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財

年　報　1

平成２年度

佐久市教育委員会

創刊にあたって

近年埋蔵文化財の発掘調査は、地域の開発事業の進む中で年々拡大をし、発掘件数も増加の一途を辿っておる現状であります。

先人の遺してくれた貴重な文化遺産である埋蔵文化財は、後世に伝えるべきものであります。それ故、埋蔵文化財の保護保存は地域開発の中でも万全を期さなければなりません。

佐久市教育委員会では、この埋蔵文化財の保護保存のために平成2年4月「埋蔵文化財課」を新設し、旧志賀小学校校舎に事務所をおき、増大する開発事業の中での埋蔵文化財発掘調査に取り組んで今日に至っております。

この埋蔵文化財の諸事業が順調に進んでまいりましたのは、開発原因者並びに発掘調査員の皆様のご理解ご協力によるものでありまして、衷心より厚く御礼を申しあげます。

このたび創刊いたしました年報は、平成2年度に発掘調査を致しました各遺跡の調査成果を収録したものであります。

各遺跡の貴重な遺物の実態をごらんいただき、古代社会の生活文明等の歴史に触れていただければ幸いと存じます。

終わりに、本書を通して今後市民の皆様はじめ関係の皆様方の一層のご支援の程をお願い申しあげまして年報創刊のごあいさつと致します。

平成4年3月

佐久市教育委員会

教育長　大　井　季　夫

目　次

Ⅰ 組　織

1 埋蔵文化財課の新設について …… 2
2 組　織 …… 3
3 体　制 …… 3

Ⅱ 事　業

1 調査事業費 …… 6
2 保護・保存事業
(1) 現状および指定保護・保存 …… 6
(2) 記録保存 …… 6
3 普及・公開事業 …… 14
4 研　修 …… 14
5 分析・鑑定 …… 14
6 刊行図書 …… 15

Ⅲ 発掘調査概要

立科F遺跡…… 21
中条峯遺跡・寄山遺跡群寄山・勝負沢遺跡…… 23
瀧の下遺跡…… 29
大ふけ遺跡…… 31
芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅳ・近津遺跡群上宮原遺跡…… 34
長土呂遺跡群聖原遺跡Ⅲ…… 36
栗毛坂遺跡群赤座垣外遺跡…… 41
西近津遺跡群三貫畑遺跡…… 43
枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・曽根新城遺跡…… 45
栗毛坂遺跡群上曽根遺跡…… 48
蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡…… 50
石並城跡…… 52
鳴沢遺跡群上屋敷遺跡…… 54
鷺の宮遺跡Ⅱ…… 58
中込新町遺跡…… 60
枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡ⅦA地点・周防畑遺跡群下北原遺跡Ⅱ…… 62
枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡ⅦB地点…… 66
東祢ぶた遺跡…… 69
筒畑遺跡…… 70
日向小坂遺跡…… 71
岩村田遺跡群中久保田遺跡…… 72
栗毛坂遺跡群西芝間遺跡…… 73
西大久保遺跡群西大久保遺跡Ⅲ…… 74

I 組　織

1　埋蔵文化財課の新設について

佐久市内には、所在する遺跡が約500有余を数え、県内でも屈指の埋蔵文化財包蔵の密集地帯であり、古代先人が佐久の地に営々と刻み続けた文化の証と歴史が脈動しています。

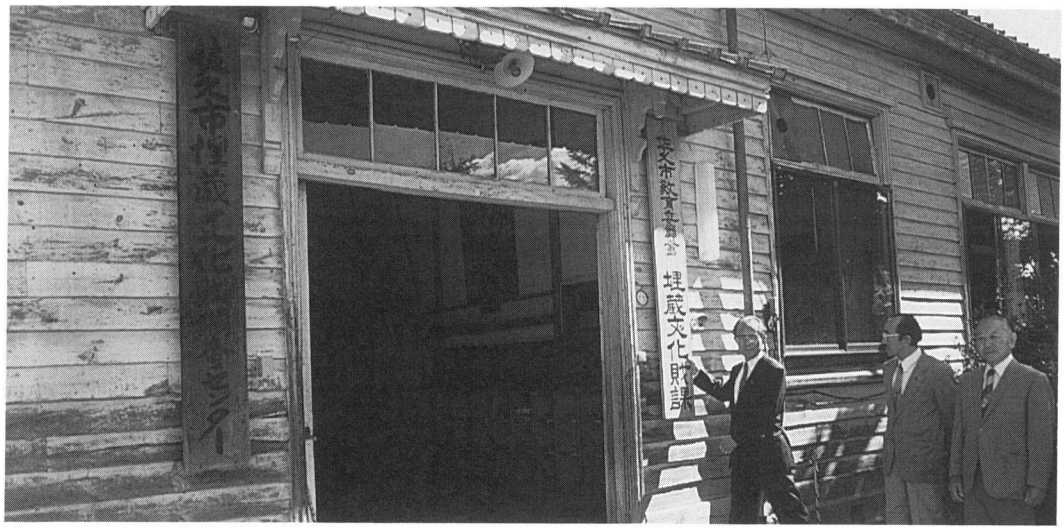
さて、佐久市は埋蔵文化財の保護保存のための理念に基づき、昭和50年県内の市町村では先駆者的ともいえる保護行政に逸早く着手し、佐久市教育委員会社会教育課内に文化財係を設け、積極的に埋蔵文化財の保護保存を図って参りました。

しかし、昭和50年代後半においては、高速道路の建設や民間の大規模開発等の大型プロジェクトの進捗に伴い、緊急かつ広範にわたっての埋蔵文化財保護対策が必要となり、発掘調査にも大きな影響を及ぼしました。

そこで、この事態に対処するため、昭和60年に佐久市開発公社内に佐久埋蔵文化財調査センターを設立し、佐久市教育委員会社会教育課との２組織の体制により緊急発掘調査を実施して来たところであります。

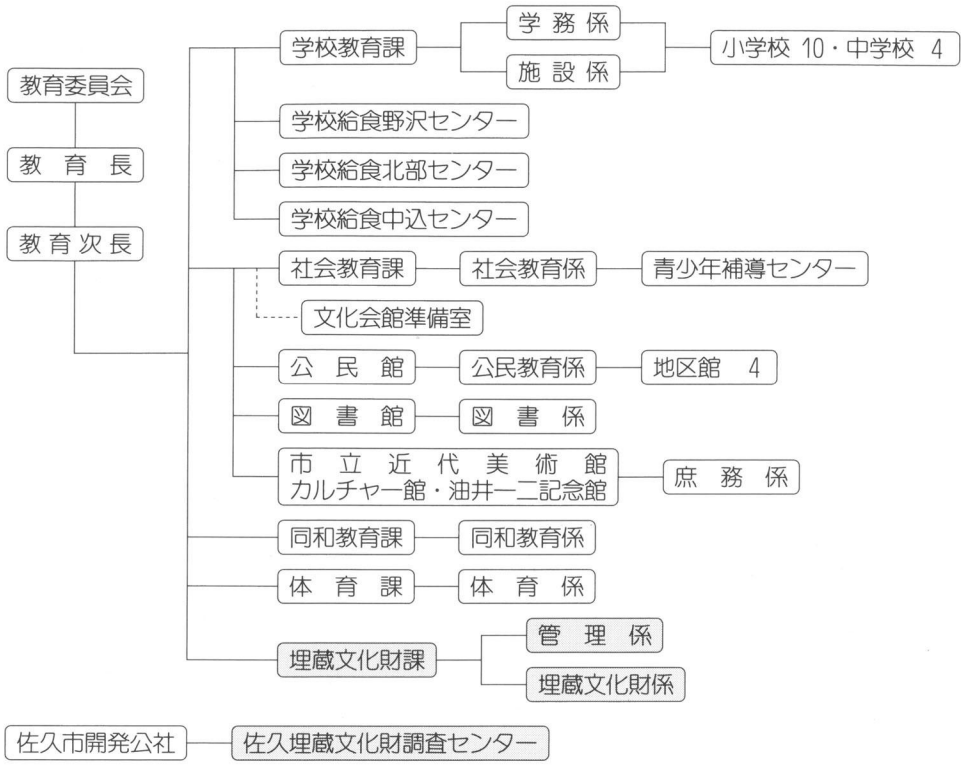
しかしながら、この体制においても保護行政を的確に進めることが厳しい状況になったことから、これらの打開策として、平成２年４月に機構改革が行われ、埋蔵文化財課が新設され、専門的な対応を行うこととなりました。そして、新課の発足に伴って生じたメリットは、緊急発掘調査に係る調査体制が充実されたこと、発掘調査員の弾力的な活用ができたこと、指示系統の一本化が図られたことなどでありました。

このことにより、今日においては既設の佐久埋蔵文化財調査センターとの連携を保ちながら、積極的な保護保存活動を実践しているところであります。



埋蔵文化財課事務所開所式

2　組　織



3　体　制

（事務局）　佐久市教育委員会埋蔵文化財課・佐久埋蔵文化財調査センター

教　育　長　大井　季夫

教育次長　小池　八郎

佐久市開発公社局長　須江　吉介

埋蔵文化財課長兼センター所長　相沢　幸男

管理係長　桜井　牧子

管　理　係　東城　公人

埋蔵文化財係長（兼務）　相沢　幸男

埋蔵文化財係　高村　博文、林　幸彦、三石　宗一、須藤　隆司、小山　岳夫、小林　真寿、羽毛田　卓也、翠川　泰弘、竹原　学、助川　朋広

（調査団）

団　　長	黒岩　忠男
副　団　長	白倉　盛男
	藤沢　平治
調査主任	佐々木　宗昭
調　査　員	井上　行雄、大井　今朝太、小林　妙子、堺　益子
調査補助員	浅沼　ノブ江、羽毛田　香里、遠藤　しずか、金森　治代、香山　優子、木島　美子、小林　幸子、小林　よしみ、田村　祐子、並木　ことみ、橋詰　勝子、橋詰　けさよ、橋詰　信子、星野　良子、細萱　ミスズ、宮川　百合子、山崎　平八郎、和久井　義雄、渡辺　久美子
協　力　者	上原　幸子、江原　富子、木内　明美、神津　ツネヨ、成沢　冨子、花岡　美津子、堀籠　滋子、堀籠　因、堀籠　みさと、柳沢　豊志子、依田　みち、青木　あさ代、青木　久子、秋山　たけ、秋山　芳子、甘利　亘、荒井　かつ、荒井　豊平、荒井　ふみ子、飯沢　つや子、飯田　チヨ子、飯田　政一、五十嵐　勝吉、池田　豊子、池田　百代、井出　愛子、井出　つねじ、磯貝　はな、井上　喜美子、今井　みさ子、岩崎　房江、上原　あや子、上原　学、梅沢　氾子、江口　まさ江、大井　キセ、小田川　栄、小田川　時江、柏原　松枝、金井　延、金沢　花子、木内　公子、清野　須美子、清野　姫子、工藤　文夫、槻沢　三之助、神津　啓子、神津　節子、神津　春代、神津　よしの、小須田　サクエ、小須田　幸子、小林　永一、小林　定男、小林　重男、小林　立江、小林　とめの、小林　和儀、小林　濱子、小林　まさ子、小林　満子、小林　みよ子、小林　澄恵、小山　林一、清水　六郎、篠崎　清一、篠原　昭子、白井おくに、須江　慶、杉山　善巳、関口　正、大工原　春巳、高橋　かね子、高橋　恒代、高橋　ふみ、高橋　冬子、高見沢　幸子、滝澤　澄子、田中　タツ子、角田　しず江、角田　すい、角田　すず子、角田　トミ江、角田　まさ江、角田　良夫、角田　時、東城　友子、徳田　代助、樋田　咲枝、中村　志づ江、中山　いつ代、中山　辰巳、中山　たのし、花里　きしの、原　キミエ、原　まき子、樋沢　しづい、藤巻　辰江、丸山　澄、村松　とみ子、茂木　とよ子、桃井　もとめ、森泉　欽一、森泉　源治郎、森角　せきよ、柳沢　千賀子、柳沢　ちなみ、柳沢　時枝、柳沢　豊子、柳沢　典子、矢野　きくえ、山浦　とらじ、山崎　直、依田　芳雄、渡辺　まさじ、渡辺　吉治

II 事　業

1　調査事業費

平成２年度埋蔵文化財調査事業費	予　算　額	219,658,000円
	決　算　額	219,596,746円
	受託事業費(再掲)	180,561,000円

2　保護・保存事業

(1)　現状および指定保護・保存

該当なし。

(2)　記録保存

1）概　要

開発原因者			事業件数	調査実施数内訳					報告書刊行数
					発掘	試掘	立会	整理	
公共事業	国庫補助事業(土地改良総合整備事業)		1	1		1			
	佐久建設事務所		9	10	2	3	3	2	2
	内訳	国道141号道路改良事業	1	2	1			1	
		その他道路・河川改良事業	8	8	1	3	3	1	2
	長野県土地開発公社		2	2	1			1	1
	内訳	小田井工業団地造成事業	1	1				1	1
		佐久リサーチパーク造成事業	1	1	1				
	北佐久農業高校（畜舎・温室等建設）		2	2		2			
	佐久市土木課（市道改良事業）		7	7	3	1	3		2
	佐久市区画整理課（区画整理事業）		1	2	1	1			
	佐久市土地開発公社（佐久流通団地）		1	1	1				
	佐久市開発公社（別荘分譲地開発）		1	2	1	1			1
民間	個人・民間業者（宅地・倉庫等造成）		5	29	4	7	18		2
	国庫補助(市内遺跡緊急発掘調査)		1	25		7	18		1
	その他		4	4	4				1
合計			29	56	13	16	24	3	8

2） 発掘調査

No.	遺跡	調査委託者	開発事業
		所在地	調査面積
		調査担当者	調査期間
		報告書・その他	
1	栗毛坂遺跡群 上曽根遺跡	（株）長野県酒類販売佐久支店	倉庫等建設
		佐久市大字岩村田字上曽根43-3外	８５０㎡
		林　幸彦	平成２年４月17日～４月24日
		『上曽根』、本書48Pに概要掲載。	
2	大ふけ遺跡	佐久建設事務所	上原・猿久保線県単道路改良
		佐久市大字鳴瀬	８００㎡
		高村　博文　平成２年５月29日～６月18日（調査）・６月19日～平成３年３月30日（整理）	
		『大ふけ』、本書31Pに概要掲載。	
3	立科Ｆ遺跡	（社）佐久市開発公社	佐久高原美笹保険休養地Ｄ地区別荘分譲地造成
		佐久市大字前山字立科1905－165外	約８００㎡
		須藤　隆司	平成２年５月30日～７月13日
		『立科Ｆ』、本書21Pに概要掲載。	
4	鳴沢遺跡群 上屋敷遺跡	（株）石井商会	宅地造成
		佐久市大字根々井字上屋敷544－１外	５０㎡
		高村　博文	平成２年10月18日
		本書54Pに概要掲載。	
5	瀧の下遺跡	佐久市（土木課）	市道29－102号線道路改良
		佐久市大字前山字瀧下845－4外	１，３５０㎡
		林　幸彦　平成２年７月２日～９月３日（調査）・９月４日～平成３年３月20日（整理）	
		『瀧の下』、本書29Pに概要掲載。	
6	西近津遺跡群 三貫畑遺跡	佐久市（土木課）	市道8－1号線道路改良
		佐久市大字長土呂字三貫畑1919－1外	１、２２５㎡
		高村　博文　平成２年10月９日～10月20日（調査）・10月21日～平成３年３月30日（整理）	
		本書43Pに概要掲載。	
7	長土呂遺跡群 聖原遺跡Ⅲ	佐久市土地開発公社	佐久流通業務団地整備事業
		佐久市大字長土呂字上聖端、字新城外	２３，３００㎡
		三石　宗一・小林　真寿・翠川　泰弘・助川　朋広	平成２年４月９日～12月７日（調査） 12月７日～平成３年３月30日（整理）
		継続事業、本書36Pに概要掲載。	
8	佐久リサーチパーク関係遺跡 中条峯遺跡 寄山遺跡群 勝負沢遺跡 寄山遺跡	長野県土地開発公社	佐久リサーチパーク造成事業
		佐久市大字瀬戸字中条峯、大字志賀字勝負沢	８４，１３０㎡
		竹原　学　平成２年６月11日～12月５日（調査）・12月５日～平成３年３月30日（整理）	
		継続事業、本書23Pに概要掲載。	

No.	遺跡	調査委託者	開発事業
		所在地	調査面積
		調査担当者	調査期間
		報告書・その他	
9	区画整理事業関係遺跡 枇杷坂遺跡群 上久保田向Ⅰ 上久保田向Ⅱ 曽根新城遺跡	佐久市（区画整理課）	佐久市都市計画岩村田北部第一土地区画整理事業道路建設
		佐久市大字岩村田字中久保田187－2　外	上久保田向Ⅰ　2，000㎡、上久保田向Ⅱ　400㎡、曽根新城　2，250㎡
		須藤　隆司	上久保田向Ⅰ　平成2年8月17日～10月16日、上久保田向Ⅱ　9月1日～10月3日、曽根新城　9月11日～11月20日
		継続事業、本書45Pに概要掲載。	
10	国道141号線関係遺跡 近津遺跡群 上宮原遺跡 芝宮遺跡群 下芝宮遺跡Ⅳ	佐久建設事務所	国道141号線道路改良事業
		佐久市大字長土呂字上宮原、字下芝宮	上宮原　2，100㎡・下芝宮　1，280㎡
		羽毛田　卓也	平成2年8月27日～9月12日（調査）・9月13日～平成3年3月30日（整理）
		『国道141号線関係遺跡発掘調査報告書』本書34Pに概要掲載。	
11	栗毛坂遺跡群 赤座垣外遺跡	佐久市（土木課）	市道2－8号線道路改良
		佐久市大字岩村田3632－9外	4，000㎡
		林　幸彦	平成2年9月18日～11月26日（調査）・11月27日～平成3年3月30日（整理）
		『赤座垣外遺跡』本書41Pに概要掲載。	
12	石並城跡	（株）森泉建設工業	宅地造成
		佐久市大字岩村田字石並3503外	976㎡
		高村　博文	平成2年12月13日～平成3年1月11日
		『石並城跡』本書52Pに概要掲載。	
13	蛇塚B遺跡群 野馬久保遺跡	（株）与志本林業	宅地造成
		佐久市大字新子田字野馬久保1928－2	2，931㎡
		羽毛田　卓也	平成3年1月16日～1月29日
		『野馬久保遺跡』本書50Pに概要掲載。	

3）　試掘調査

No.	遺跡	調査委託者	開発事業
		所在地	調査面積
		調査担当者	調査期間
		報告書・その他	
14	一本柳遺跡群 上福王寺遺跡	（株）小林建設工業	宅地造成
		佐久市大字岩村田字上福王寺2208外	1，200㎡（11，755㎡）
		林　幸彦	平成2年4月16日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
15	枇杷坂遺跡群 琵琶坂遺跡 Ⅶ　B　地点	北佐久農業高校	北佐久農業高校創立90周年記念実行委員会による中庭公園整備事業
		佐久市大字岩村田991	64㎡（640㎡）
		高村　博文	平成2年7月2日
		本書66Pに調査結果報告。	

No.	遺　跡	調査委託者	開発事業
		所在地	調査面積
		調査担当者	調査期間
		報告書・その他	
16	琵琶坂遺跡群 琵琶坂遺跡 Ⅶ A 地点 周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ	北佐久農業高校	琵琶坂ⅦA　ガラス温室棟他建設、下北原Ⅱ　管理宿舎棟・牛豚舎他建設
		琵琶坂ⅦA　佐久市大字岩村田991 下北原Ⅱ　佐久市大字岩村田864	琵琶坂ⅦA　３０㎡（３００㎡） 下北原Ⅱ　１，０００㎡（６，０００㎡）
		高村　博文	平成２年７月３日～４日
		本書62Pに調査結果報告。	
17	中込新町遺跡	佐久建設事務所	（国）都市計画街路中込・田口線道路改良
		佐久市大字中込字用水口・南畑外	３００㎡（３，１００㎡）
		高村　博文	平成２年10月29日
		本書60Pに調査結果報告。	
18	猿久保屋敷添遺跡１	光和建設株式会社	宅地造成
		佐久市大字猿久保字屋敷添448外	１，０００㎡（２，４９８㎡）
		高村　博文	平成２年11月５・６日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
19	鷺の宮遺跡Ⅱ	佐久市（土木課）	市道31－1号線道路改良
		佐久市大字瀬戸字鷺の宮	１００㎡（９２８．９７㎡）
		高村　博文	平成２年11月８日
		本書58Pに調査結果報告。	
20	長土呂遺跡群２	株式会社吉田製作所	テニスコート造成
		佐久市大字長土呂字上大林168－11	７０㎡（７００㎡）
		小林　真寿	平成２年12月17日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
21	立石遺跡	荻原地区土地整備組合	荻原地区土地整備事業
		佐久市大字根岸字荻原4103－１外	３００㎡（２，２９０㎡）
		竹原　学	平成２年12月18日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
22	長土呂遺跡群 下大林遺跡	株式会社武重商会	資材置場造成
		佐久市大字長土呂字下大林546、547－1	１８０㎡（１，７６３㎡）
		羽毛田　卓也	平成３年３月13日
		『市内遺跡発掘調査報告書1991（１月～３月）』	
23	立科Ｆ遺跡	佐久市開発公社	佐久高原美笹保健休養地Ｄ地区別荘分譲地開発
		佐久市大字前山字立科1905－165外	約６，０００㎡（１５４，０００㎡）
		須藤　隆司	平成２年４月16日～５月24日
		『立科Ｆ』、試掘後本調査実施。	
24	大ふけ遺跡	佐久建設事務所	上原・猿久保線県単道路改良事業
		佐久市大字鳴瀬	３，０００㎡
		林　幸彦	平成２年５月８日～11日
		『大ふけ』、試掘後本調査実施。	

No.	遺　跡	調査委託者	開発事業
		所在地	調査面積
		調査担当者	調査期間
		報告書・その他	
25	区画整理事業関係遺跡	佐久市（区画整理課）	佐久市都市計画岩村田北部第一土地区画整理事業道路建設
		佐久市大字岩村田字中久保田187－2外	7，000㎡（70，138㎡）
		須藤　隆司	平成2年7月23日～9月10日・12月26日
		継続事業、試掘後本調査実施。	
26	石並城跡	森泉建設工業株式会社	宅地造成
		佐久市大字岩村田字石並3503外	976㎡
		高村　博文	平成2年12月13・14日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』、試掘後本調査実施。	
27	蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡	与志本林業株式会社	宅地造成
		佐久市大字新子田字野馬久保1928－2	1，000㎡（2，931㎡）
		羽毛田　卓也	平成2年12月25・26日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』、試掘後本調査実施。	
28	筒村遺跡A	佐久建設事務所	一級河川中沢川局部改良事業
		佐久市大字根岸900外	500㎡（10，000㎡）
		林　幸彦	平成2年12月
		継続事業、平成3年度本調査。	
29	筒村遺跡B	佐久平土地改良区	団体営土地改良総合整備事業（土地総型日向地区）
		佐久市大字根岸900外	1，000㎡（42，000㎡）
		林　幸彦	平成2年12月
		継続事業、平成3年度本調査。	

4）　立ち会い調査

No.	遺　跡	原因者	調査原因
		所在地	開発面積
		調査担当者	調査期日
		報告書・その他	
30	西大久保遺跡群西大久保遺跡Ⅲ	佐久建設事務所	県単高速道路改良事業
		佐久市大字上平尾字塚畑ケ809－1外	1，600㎡
		高村　博文	平成2年5月15日
		本書74Pに調査結果報告。	
31	日向小坂遺跡	佐久建設事務所	道路改良
		佐久市大字大沢字日向小坂	2，400㎡
		高村　博文	平成2年11月12日
		本書71Pに調査結果報告。	

No.	遺　跡	原　因　者	調　査　原　因
		所　在　地	開　発　面　積
		調査担当者	調　査　期　日
		報告書・その他	
32	岩村田遺跡群 中久保田遺跡	佐久建設事務所	道路改良
		佐久市大字岩村田	1，200㎡
		高村　博文	平成3年2月25日
		本書72Pに調査結果報告。	
33	筒畑遺跡	佐久市（土木課）	市道38－36号線道路改良事業
		佐久市大字安原字筒畑821－1外	299．1㎡
		高村　博文・小林　真寿	平成2年11月13・26日
		本書70Pに調査結果報告。	
34	東祢ぶた遺跡	佐久市（土木課）	市道37－44号線道路改良事業
		佐久市大字香坂1537外	2，280㎡
		助川　朋広	平成2年12月18日
		本書69Pに調査結果報告。	
35	西芝間遺跡	佐久市（土木課）	市道2－54号線道路改良事業
		佐久市大字岩村田529	2，250㎡
		高村　博文	平成3年2月7日～9日
		本書73Pに調査結果報告。	
36	大沢屋敷遺跡1	木内　徹	個人住宅建設
		佐久市大字大沢字屋敷997	74．52㎡（362㎡）
		高村　博文	平成2年8月27日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
37	東千石平遺跡群	土屋　今朝美	個人住宅建設
		佐久市大字瀬戸字千石平1558－12	54．11㎡（247㎡）
		高村　博文	平成2年9月22日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
38	岩村田遺跡群1	井出　雅男	貸し店舗・駐車場建設
		佐久市大字岩村田字黒地蔵161－1	158．4㎡（1，099㎡）
		小山　岳夫	平成2年10月15日
		市内遺跡発掘調査報告書1990』	
39	番屋前遺跡群1	荻原　廣太郎	共同住宅・駐車場建設
		佐久市大字猿久保字番屋前900－1	501㎡（1，174㎡）
		小山　岳夫	平成2年10月22日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
40	番屋前遺跡群2	柳沢　昇	共同住宅・駐車場建設
		佐久市大字中込字東大堰手前3174－1外	491．9㎡（801㎡）
		小山　岳夫	平成2年11月8日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	

No.	遺　跡	原　因　者	調　査　原　因
		所　在　地	開　発　面　積
		調査担当者	調　査　期　日
		報告書・その他	
41	下信濃石遺跡1	石井商会株式会社	宅地造成
		佐久市大字岩村田字仁王前337外	1，174㎡
		小山　岳夫	平成2年11月8日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
42	西近津遺跡群1	川手　歳和	個人住宅建設
		佐久市大字長土呂字西近津1751−11	61．43㎡（206㎡）
		小山　岳夫	平成2年11月8日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
43	白山遺跡群1	信濃ベンディング株式会社	事務所兼倉庫建設
		佐久市大字今井字下原758	275．4㎡（763㎡）
		高村　博文	平成2年11月21日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
44	猿久保屋敷添遺跡2	株式会社朝倉・佐久電気・金井ふみ子	資材置き場・擁壁建設
		佐久市大字猿久保字屋敷添451−4外	1，048㎡
		高村　博文	平成2年12月8日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
45	芋の原遺跡群1	渡辺　圭司	個人住宅建設
		佐久市大字横根字十二平1172−4	117．59㎡（979㎡）
		高村　博文	平成2年12月9日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
46	芝宮遺跡群2	森泉　英	個人住宅建設
		佐久市大字長土呂字上芝宮771−6	74．97㎡（330㎡）
		翠川　泰弘	平成2年12月14日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
47	道添遺跡1	神岡　信夫	個人住宅建設
		佐久市大字塚原字道裏2384−1	48．13㎡（115㎡）
		翠川　泰弘	平成2年12月18日・19日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
48	一本柳遺跡群1	籠谷　恒男	個人住宅建設
		佐久市大字岩村田字上樋田1820−4	70．38㎡（232㎡）
		三石　宗一	平成3年1月8日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
49	寺畑遺跡群1	森泉　辰男	個人住宅建設
		佐久市大字根々井字寺畑385−2	79．33㎡（724㎡）
		助川　朋広	平成3年1月9日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	

No.	遺　跡	原　因　者	調　査　原　因
		所　在　地	開　発　面　積
		調査担当者	調　査　期　日
		報告書・その他	
50	浅井城跡1	中野　暹	資材倉庫建設
		佐久市大字新子田字紐ケ久保832－1	62．21㎡（254㎡）
		竹原　学	平成3年1月10日
		『市内遺跡発掘調査報告書1990』	
51	周防畑遺跡群2	株式会社カウベルエンジニアリング	工場建設
		佐久市大字長土呂字一ツ長田1740－4	198㎡（264㎡）
		高村　博文	平成3年2月9日
		『市内遺跡発掘調査報告書1991（1月～3月）』	
52	中原遺跡群2	磯貝　幹雄	個人住宅建設
		佐久市大字三河田字山橋場399－6	72．08㎡（386㎡）
		高村　博文	平成3年2月11日
		『市内遺跡発掘調査報告書1991（1月～3月）』	
53	深堀遺跡群1	田中　馨	共同住宅建設
		佐久市大字瀬戸字殘塚1407－5	195．37㎡（568㎡）
		羽毛田　卓也	平成3年3月29日
		『市内遺跡発掘調査報告書1991（1月～3月）』	

5）　整理調査

No.	遺　跡	調査委託者	開　発　事　業
		所　在　地	調　査　面　積
		調査担当者	調　査　期　間
		報告書・その他	
54	国道141号関係遺跡 芝宮遺跡群、下芝宮遺跡Ⅰ～Ⅳ、上高山遺跡、近津遺跡群、上宮原遺跡、長土呂遺跡群、上大林遺跡、下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ、周防畑遺跡群、下北原遺跡、下蟹沢遺跡	佐久建設事務所	国道141号道路改良事業
		佐久市大字長土呂字上大林外	（36，950㎡）
		羽毛田　卓也	平成2年5月1日～平成3年3月30日
		平成3年度刊行予定。	
55	金井城跡	長野県土地開発公社	県営小田井工業団地造成
		佐久市大字小田井字中金井1128外	（80，000㎡）
		高村　博文	平成2年4月2日～平成3年3月30日
		『金井城跡』	
56	石附窯址群Ⅲ	佐久建設事務所	国道142号道路改良事業
		佐久市大字根岸字荻原	（2，600㎡）
		竹原　学	平成2年12月6日～平成3年3月31日
		『石附窯址群Ⅲ』	

3　普及・公開事業

(1)　少年考古学教室

開催期日　平成２年８月２日～４日

開催遺跡　長土呂遺跡群聖原遺跡　佐久市大字長土呂

対　　象　市内小中学校生徒

カリキュラム　講話　「佐久市の古代について」

実技　　住居址の発掘

見学　　調査された住居址・掘立柱建物址群

(2)　現地説明会

瀧の下遺跡（佐久市大字前山）

開催期日　　平成２年７月27日

見 学 者　　前山地区住民25名

4　研　修

(1)　森将軍塚古墳・松原遺跡視察

期　日　平成２年９月27日

参加者　佐久市埋蔵文化財調査団員

(2)　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研修

課　程　環境考古課程

期　間　平成２年10月10日～31日

参加者　助川　朋広

5　分析・鑑定

(1)　立科Ｆ遺跡

テフラ分析	帝京大学山梨文化財研究所　笠井　学氏
黒曜石水和層分析・産地同定	立教大学　鈴木正男・戸村健児氏
石器使用痕分析	神奈川県埋蔵文化財センター　御堂島　正氏

(2) 下聖端遺跡

炭化材樹種同定　　パリノサーヴェイ株式会社

(3) 金井城跡

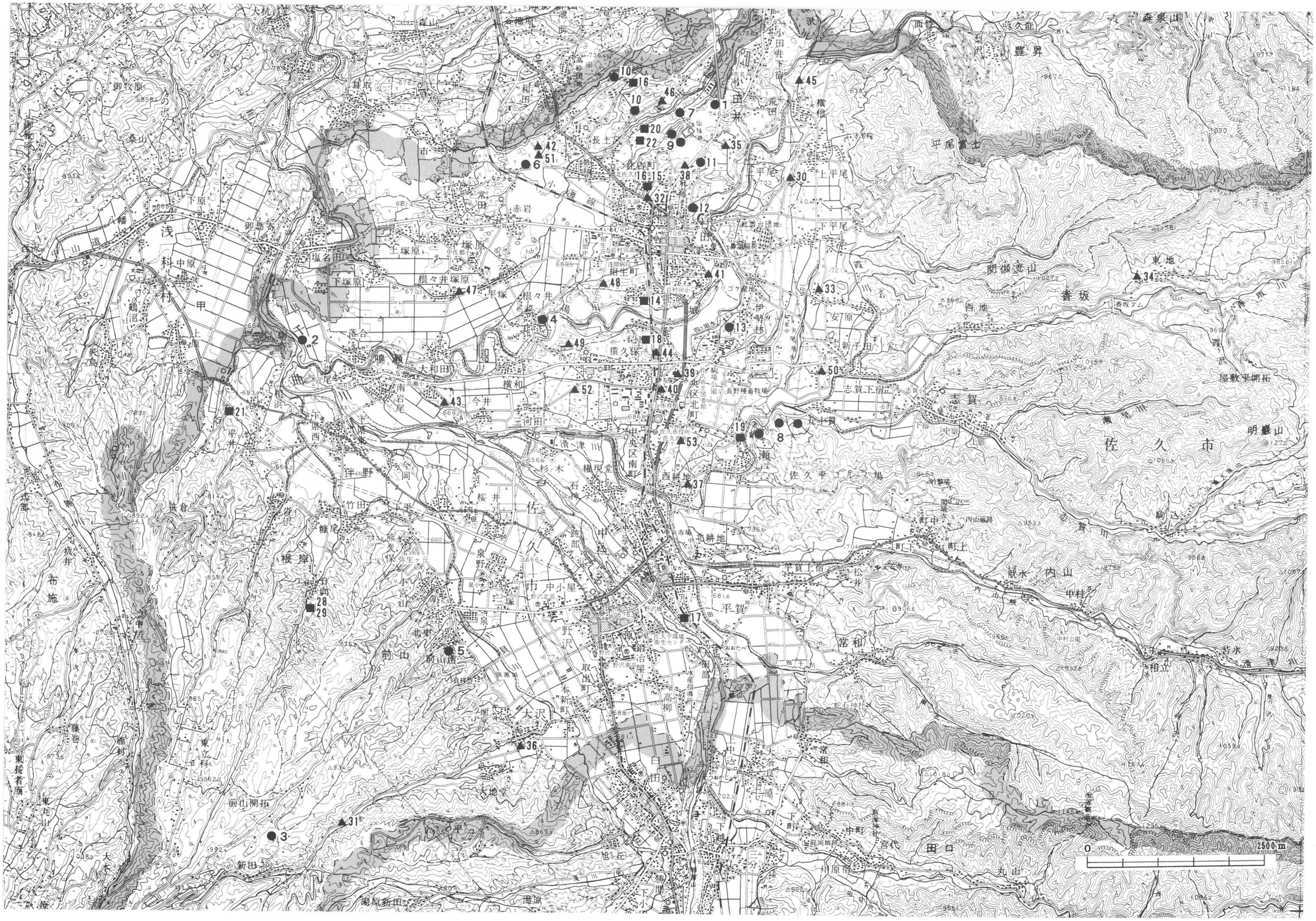
人骨鑑定	聖マリアンナ医科大学	森本岩太郎氏
獣骨鑑定	群馬県立大間々高校	宮崎重雄氏
炭化種子鑑定	信州大学	氏原輝男氏
炭化材樹種同定	パリノサーヴェイ株式会社	
鉄滓分析	国立歴史民俗博物館	田口　勇・斉藤　努氏
金井城跡の縄張りについて	長野県埋蔵文化財センター	河西克造氏
金井城跡出土の陶磁器について	同上	市川隆之氏
金井城跡とその歴史的背景について	佐久考古学会	井出正義氏

(4) 上曽根遺跡

獣骨鑑定　　群馬県立大間々高校　宮崎重雄氏

6　刊行図書

佐久市埋蔵文化財調査報告書	第１集	『金井城跡』
	第２集	『市内遺跡発掘調査報告書1990』
	第３集	『石附窯址群Ⅲ』


佐久市
浅科村
佐久市中心部
0
2500m

III　発掘調査概要

凡　例

1　本書では平成２年度調査遺跡の内、面的な発掘調査を実施した遺跡、および報告書の発刊されていない試掘・立ち合い調査の遺跡についてその概要を収録した。

2　挿図の内、位置図は佐久市発行の25,000分の１地図を用いた。

3　執筆は各遺跡の調査担当者（本文）が記載したが聖原遺跡については三石宗一、赤座垣外・上曽根遺跡については佐々木宗昭、筒畑遺跡については高村博文が記載した。

立科Ｆ遺跡

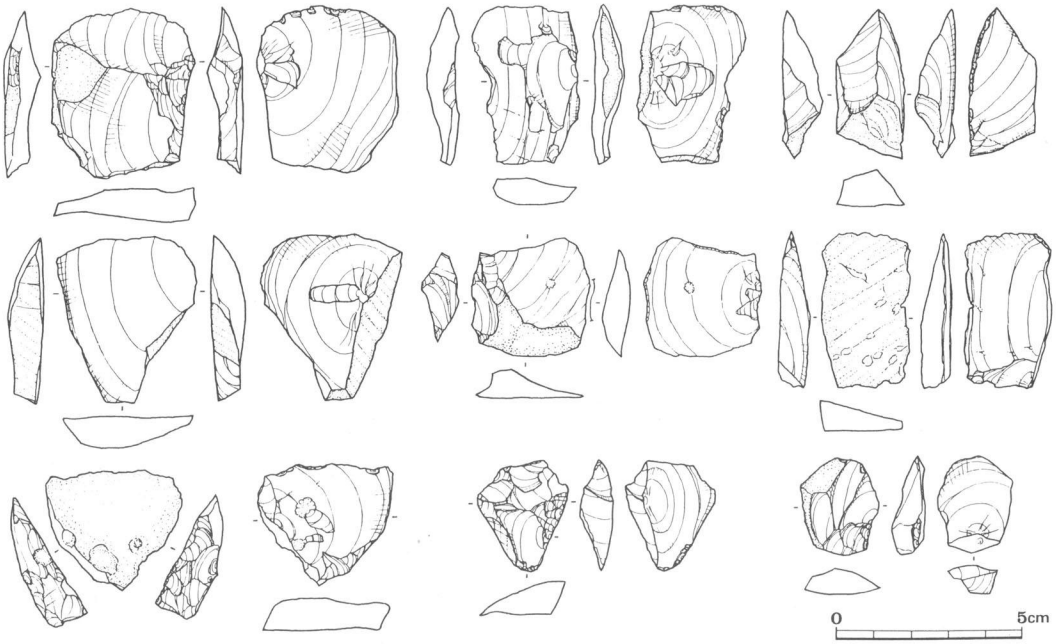
所　在　地　佐久市大字前山字立科
調査委託者　（社）佐久市開発公社
開発事業　佐久高原美笹保健休養地Ｄ地区
別荘分譲地造成
調査期間　平成２年５月30日～７月13日
調査面積　約800㎡
調査担当者　須藤隆司

経過と立地

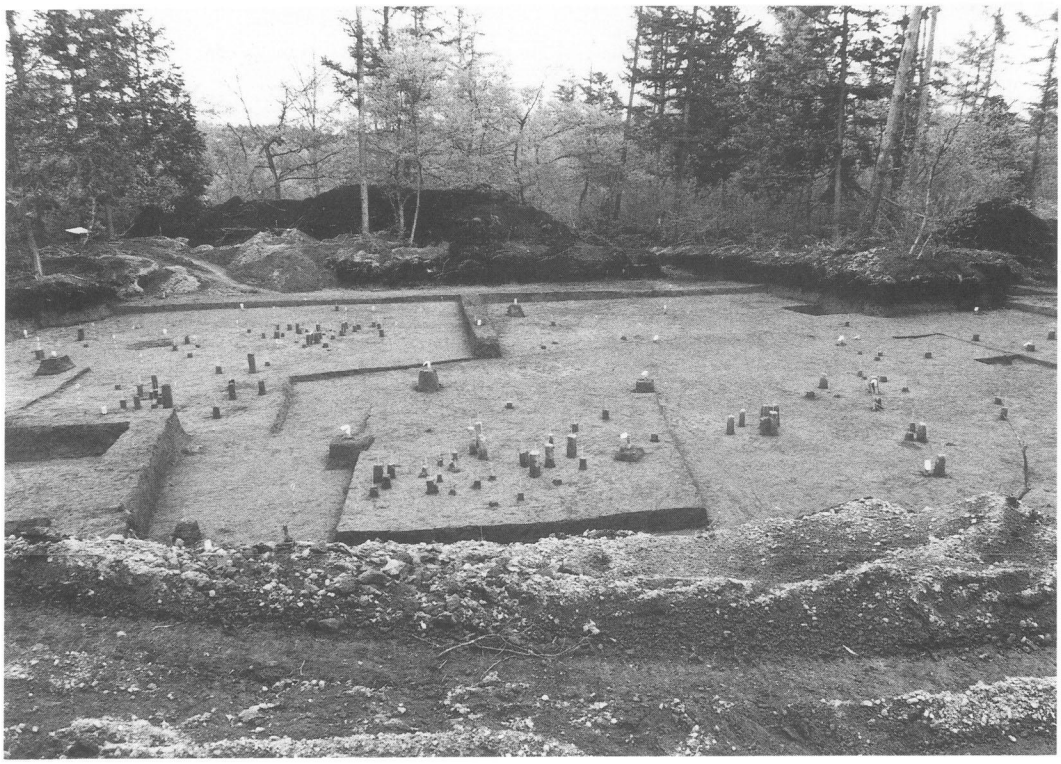
立科Ｆ遺跡は、八ケ岳北東麓の蓼科山より佐久盆地に延びる山麓緩斜面に位置し、標高970mの尾根上平坦面に立地している。

調査概要

本遺跡は別荘開発に先立つ緊急調査で発見・調査された先土器時代の遺跡であり、検出された遺物は211点からなる石器群である。検出層位は、広域火山灰である姶良Ｔｎ火山灰、八ケ岳新期第Ⅳ軽石降灰以前のローム層である。また、黒曜石水和層年代測定によって31,200年±900年前という年代が得られている。石器群で用いられていた石材は、和田峠と星ケ塔を原産地とする黒曜石を主体とし、安山岩、チャート、流紋岩、緑色片岩、砂岩である。石器群の組成は、ナイフ形石器、掻器、削器、楔形石器、揉錐器、刃器（使用痕のある剥片）、磨石、台石、石斧調整剥片、剥片、砕片、石核である。石器群の構造的特徴は、剥片が有する機能的側面を選択的に石器形態として活用している点にあり、ナイフ形石器文化の初期構造を典型的に示したものと考えられる。遺跡の広がりは、９箇所のブロック分布として把握されている。そのうちブロック１からブロック６は径10m程の広場を取り囲むかたちで配置されており、その広場にブロック７が存在する。これらのブロック群は、個体別資料分析により、世帯単位の作業ないし居住空間と把握される３つのユニット（ブロック１・２、ブロック３、ブロック４～６）と居住集団の共同作業空間を示唆するユニット（ブロック７）として理解することができると思われる。こうしたあり方から、立科Ｆ遺跡は、先土器時代の小規模な集落であり、その集落形態は中央広場の存在を特徴とする環状集落であったと想定している。



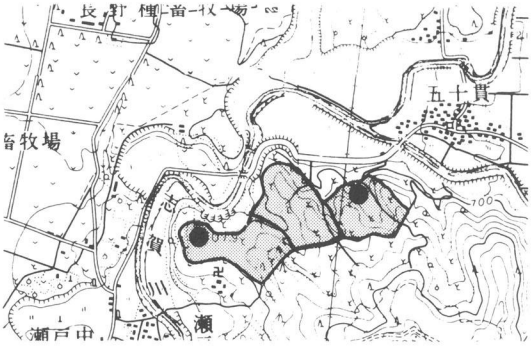
立科F遺跡のナイフ形石器



立科F遺跡のブロック群

中条峯遺跡・寄山遺跡群寄山・勝負沢遺跡

所　在　地　佐久市大字瀬戸字中条峯
佐久市大字志賀字勝負沢・寄山
調査委託者　長野県土地開発公社
開発事業　佐久リサーチパーク造成
調査期間　平成２年６月11日～12月５日
調査面積　84,130㎡
調査担当者　竹原　学



経過と立地

中条峯遺跡・寄山遺跡群は佐久平東部を画する八風山・荒船山塊の山麓末端部、北を志賀川、南を滑津川に挟まれた丘陵北部に位置する。地質的には本丘陵は基盤を第３紀層とし、佐久平北部を広く覆う浅間第１軽石流堆積層は本丘陵にぶつかって止まっている。従って、丘陵北端部の斜面、谷部には軽石層が乗り上げており、後者では第３紀層由来の粘質土と混和した２次堆積層が観察される。かつて遺跡北方、現潜岩橋付近においてこの軽石流により志賀川がせき止められ志賀湖を形成、戦国時代に至って干拓事業が行われ、水田が拓かれたと云われている。

遺跡は当時存在したであろう志賀湖に臨み、中条峯遺跡では丘陵頂部を中心に縄文時代前期を主体とした集落、寄山遺跡群は北方に開ける３条の浅谷を利用し、両岸の斜面に縄文時代中期の集落を主体として、弥生・平安時代の遺物散布も認められる。また中条峯遺跡南側の斜面、寄山遺跡の丘陵末端部には後期古墳の所在が知られている。

今回の調査は一帯に計画された佐久リサーチパーク造成にともない実施したもので、遺跡全体面積約15haの内中条峯遺跡１Ａ・１Ｃ地区7,390㎡、寄山遺跡群勝負沢遺跡１地区6,300㎡について全面調査を、中条峯遺跡２Ａ・２Ｂ地区17,400㎡、寄山遺跡群寄山遺跡５・６地区34,040㎡、寄山遺跡群勝負沢遺跡２地区19,000㎡について確認調査を実施した。

調査概要

中条峯遺跡　縄文時代の遺構は１Ｂ地区西半部、すなわち丘陵頂部の平坦面から北側斜面を中心に縄文時代前期初頭の竪穴住居址２棟、土坑22基が検出された。

住居址は２棟とも北向き斜面にあり、第１号住居址が良好に残存していた。長径3.97m・短径推定3.2mの楕円形プランを呈し、北側の壁・床は流出により失われている。南壁中央の壁下には

近接して柱穴２基があり、柱の周囲に組まれたものか礫、鉄平石が存していた。床面北壁寄りにもやや深いピットがあり、南壁下のものと対になる柱穴と受け取れるが、覆土中に焼土粒が多く掘り方周囲の床面が被熱しており、火処の可能性もある。その他、東～北壁にかけて、壁沿いに長楕円形の大きな掘り込みが見られる。

遺物は覆土中より石器類を中心に700点近くが存したほか、床面より良好な一括資料が得られた。特に西～南壁下にかけて横倒しの大小２個体の尖底深鉢、打製石斧が遺存していたほか、南～北壁下の落ち込み底面にも磨石、小形の尖底深鉢が遺されていた。

土坑はいずれも楕円形プランの浅いもので、長径0.5～2.5mのものが見られた。その分布傾向は住居址と異なり、丘陵最頂部付近の平坦面に集中する。

１Ａ区北端および１Ｃ区南端の傾斜面では上方からの流入土が厚く堆積し、石器類を主体に多量の遺物が包含されていたが、土質や現地形との関係から見て比較的新しい形成層と判明した。

縄文時代以外の遺構としては、丘陵頂部を東西に走る溝状遺構がある。その大半は平成３年度調査予定地内にあるが、現三角点付近で南に屈折している。時代を決定する遺物に欠けるが、地名との関連から城郭あるいはそれに類する施設を構成するものの可能性もあろう。

調査区東側、丘陵の上部の２Ａ・Ｂ区では城郭等の遺構が存在する可能性があったが、トレンチ調査の結果からは何も発見されていない。

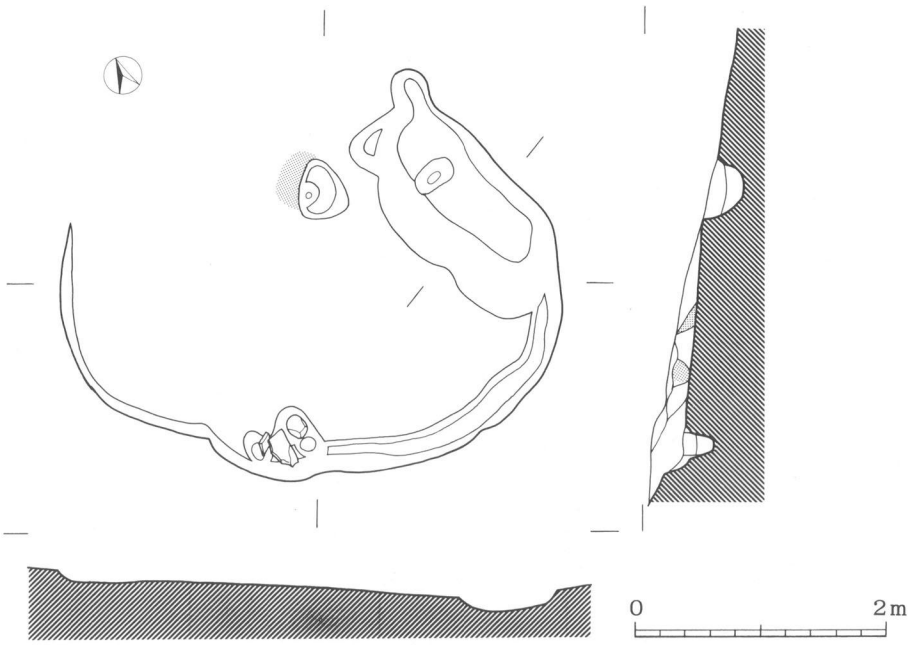
勝負沢遺跡　遺跡群東端の浅谷部にあり、その北半部を今回調査した。谷中央には水量が乏しいながらも小河川が走る。谷底部はその両岸15～28mの幅を有し、緩く中央に傾斜する。丘陵頂部へは両岸とも比較的急激に立ち上がり、強い傾斜となっている。１地区では何等遺構の検出はなかったが、谷底部に黒色～暗褐色の堆積層があり、多量の縄文時代中期の土器・石器、右岸では一部平安時代の遺物が包含されていた。このことから周囲の丘陵頂部、あるいは斜面に居住域を想定せざるを得ないが、後世の開墾による削平が著しく、住居址等全く検出されなかった。

寄山遺跡　寄山遺跡群内では最も安定した平坦面の存する丘陵上の確認調査を行った。しかしながら遺構はほとんど検出されず、遺物の散布を見ても丘陵両側の傾斜面から谷部にその集中がみられ、勝負沢遺跡と同様、浅谷を臨んだ斜面に居住域が存在するものと考えられる。

まとめ　中条峯遺跡は縄文時代前期最初頭という、調査例の非常に少ない集落址の全面調査であり、来年度調査に大きく期待がかかる。寄山・勝負沢遺跡は今回遺構の検出こそなっかったものの、台地上の集落と異なり浅谷を囲んで縄文中期集落が展開する可能性が強まった。来年度以降の調査によりその構造、浅谷毎の集落の動き等が明らかとなってゆくだろう。

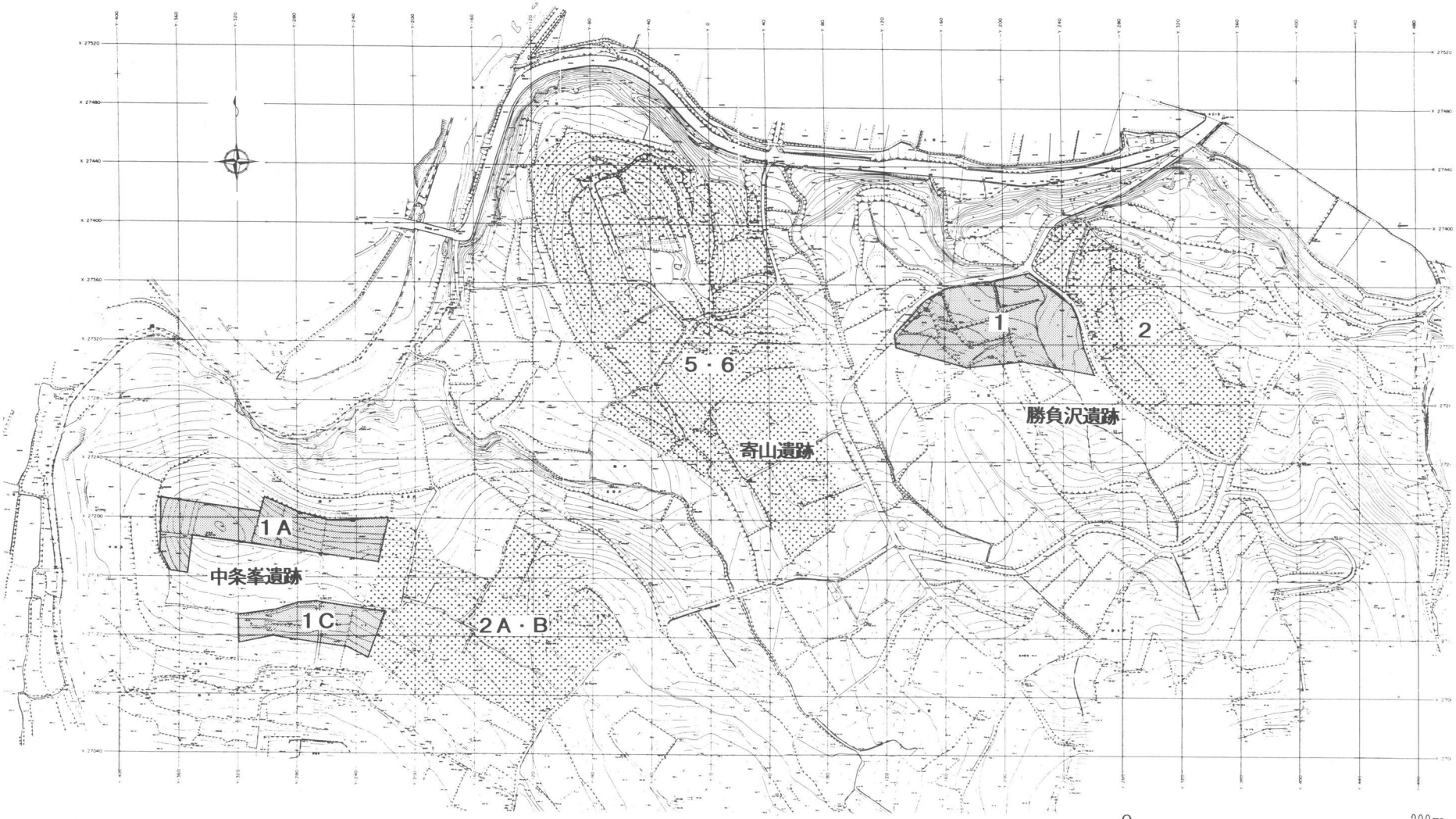
遺跡上空より浅間山を望む（朝日航洋株式会社撮影）

中条遺跡１Ａ・Ｃ区（北から、朝日航洋株式会社撮影）



中条峯遺跡第１号住居址（１：60）

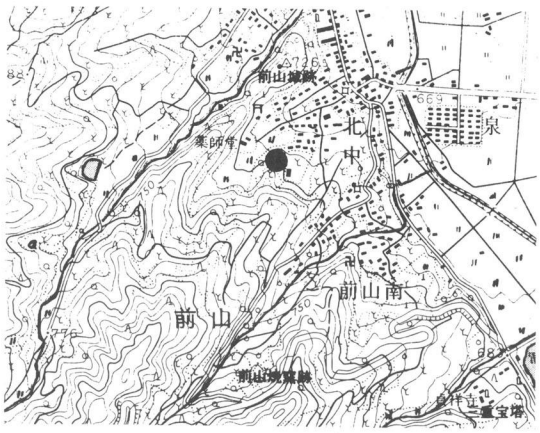
中条遺跡第１号住居址遺物出土状況



中条峯・寄山遺跡群全体図

瀧の下遺跡

所　在　地　佐久市大字前山字滝下・
　　鱗渓845-5外
調査委託者　佐久市（土木課）
開発事業　市道29ー102号線道路改良
調査期間　平成２年７月２日～９月３日
調査面積　1,350㎡
調査担当者　林　幸彦



経過と立地

野沢平の西端を北流する片貝川の流域は、低湿地帯で佐久地方の代表的水田地帯である。この水田地帯を画しているのが立科山塊の東麓台地で、幾筋もの文脈が突き出している。滝の下遺跡はその分岐した台地の一つ、北東に緩く傾斜する台地上にあり、標高678～702mを測る。

遺跡は約35,000㎡の面積で隣接して象ケ岡遺跡や居屋敷遺跡が、北方100mには、佐久市指定史跡前山城跡が存在する。本遺跡は古くから知られていて八幡一郎氏の『南佐久郡の考古学的調査』にも瀧下相として紹介されている。既出遺物としては、縄文時代後期を主とする土器、石鏃、石錐、土偶、石剣などがある。

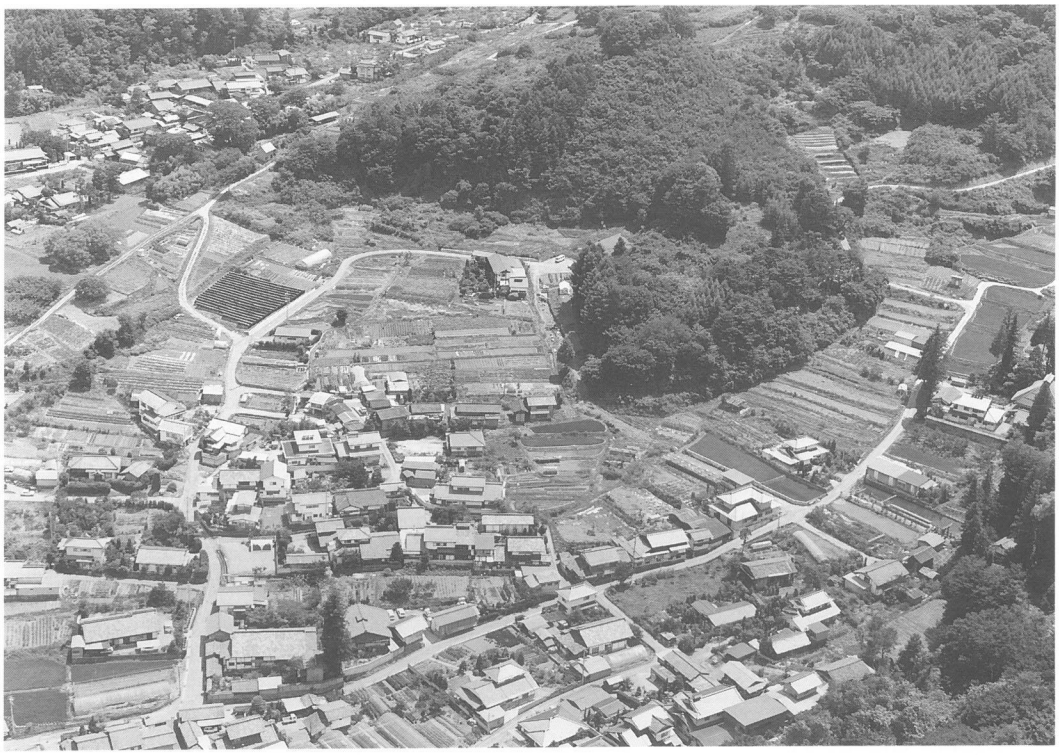
平成２年佐久市土木課により市道29ー102号線の道路改良工事が行われることとなり、緊急発掘調査を実施することになった。

調査概要

道路幅約７mについて発掘調査を実施した。その結果、遺構は縄文時代後期の竪穴住居址３軒等が検出された。遺物は縄文時代前期・中期・後期、弥生時代中期・後期の土器等が出土した。

縄文時代後期の住居址は敷石住居址が２軒ある。Ｊ１号住居址の敷石は、炉の周辺に菱形に敷かれ、大小の鉄平石が用いられている。鉄平石の間には小さな円礫が込められている。

遺物は縄文時代の住居址から出土したほかに、調査地の上方より少なくても２時期にわたり土砂の流出がありその土砂の中から多量の遺物が出土した。

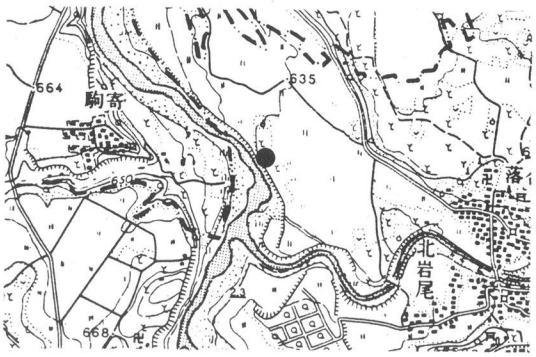


瀧下遺跡全景（北東から）

Ｊ１号住居址

大ふけ遺跡

所　在　地　佐久市大字鳴瀬字大ふけ
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業　上原・猿久保線県単道路改良
調査期間　平成２年５月29日～６月18日
調査面積　800㎡
調査担当者　高村博文



経過と立地

大ふけ遺跡は、佐久市の北西部、浅科村堺に存在する。北流する千曲川の右岸、第１河岸段丘上に位置し、遺跡の直下に流路を北東から北西に変化する千曲川が一望でき、標高は637m付近を測る。

昭和50年には、東方に隣接する細田遺跡が県営圃場整備事業に先立って発掘調査され、周溝墓（?）、土坑などが検出されている。今回、佐久建設事務所による上原･猿久保線県単道路改良事業が計画され遺跡の保護措置が必要となり、平成元年に佐久建設事務所と佐久市教育委員会との協議の結果、試掘調査を実施し、その結果を待って再協議することとなった。

試掘調査は、平成２年５月９日～11日にわたって実施した。その結果、弥生時代後期から古墳時代前期の周溝墓と考えられる遺構２基と溝状遺構等が検出された。そこで、５月22日に長野県文化課・佐久建設事務所・佐久市教育委員会の三者により保護協議を行い、記録保存することとなった。

調査概要

今回、大ふけ遺跡において検出された遺構は、周溝墓２基、土坑３基、溝状遺構１基である。

本遺跡の方形周溝墓から出土した土器で大形甕はみられないが、壺が４個体出土しており、すべて赤色塗彩されていること、４個体中３個体が頸部に文様帯をもつこと、しかし、１個体は頸部に文様帯が消失しており胴部が球胴形を呈する。

久保田遺跡の周溝墓出土の壺は頸部文様帯が３個体中３個体消失しており、時期的には池畑遺跡１・２号住→本遺跡周溝墓→久保田遺跡周溝墓と考えられ、B期に位置づけられよう。

本遺跡の周溝墓は、１基が円形を呈しており、もう一基についても墳丘部分は円形を意識しているように感じられる。佐久地方の弥生時代から古墳時代の墳丘平面形の基本は方形が基調であ

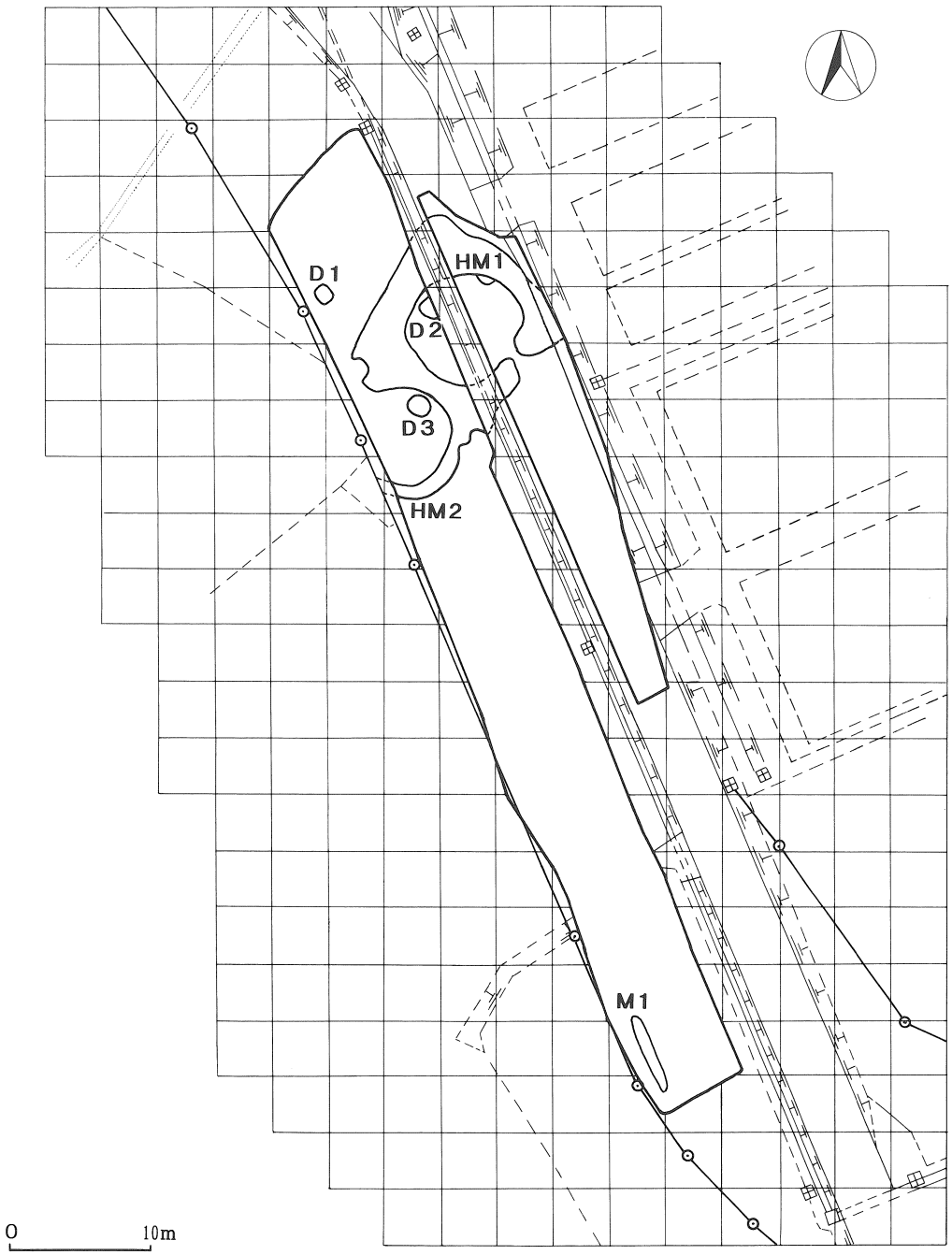
り、今回の円形を意識した周溝墓の存在は何を意味するのだろう。

弥生時代から古墳時代への時代の変動は人々の精神性にも様々な影響を与えたものと考えられる。佐久地方が大和（中央）政権にくみいれられる過程にはどのようなことが起こったのだろう。

今回、検出された周溝墓２基は、この激変する時代に残された文化の遺産である。

佐久地方の弥生時代終末から古墳時代前期の時期区分試案

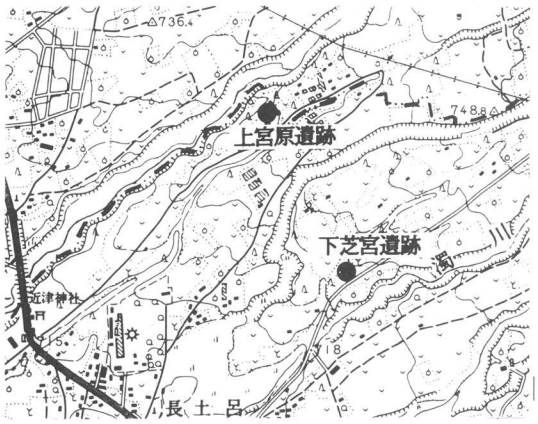
年	時代	時期	信濃			濃尾	畿内・大和	
			佐久地方	善光寺平	恒川			
300	弥生時代	A	下小平Ｙ１～５住		Ⅴ	欠山	庄内	纒向2
		B	池畑１・２住（大ふけ１・２号周溝）	御屋敷Ｙ1･2･4住	Ⅵ	元屋敷（古）	布留（０）	纒向3
		C	瀧の峯２号墳（久保田Ｙ２・３住、ＨＭ１～３号周溝）	（＋）	Ⅶ	元屋敷（中）	布留（古）	纒向4
	古墳時代	D	下小平ＨＭ１・２号周溝（宿上屋敷１・６号住）	灰塚Ｈ１住	↓	元屋敷（新）	布留（中）	
400		E	北西の久保第１次Ｈ16住（西裏10住、後沖1･4･11･16住、石附ＨＭ１号周溝）	城の内15住	Ⅸ		布留（新）	
		F	前田Ｈ16住（御代田町）	城の内12住	Ⅹ		ＴＫ７３	



大ふけ遺跡遺構全体図（1：500）

芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅳ・近津遺跡群上宮原遺跡

所　在　地　佐久市大字長土呂字下芝宮
　　佐久市大字長土呂字上宮原
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業　国道141号改良事業
調査期間　平成２年８月27日～９月12日
調査面積　下芝宮Ⅳ　1,280㎡
　　上宮原　　2,100㎡
調査担当者　羽毛田卓也



経過と立地

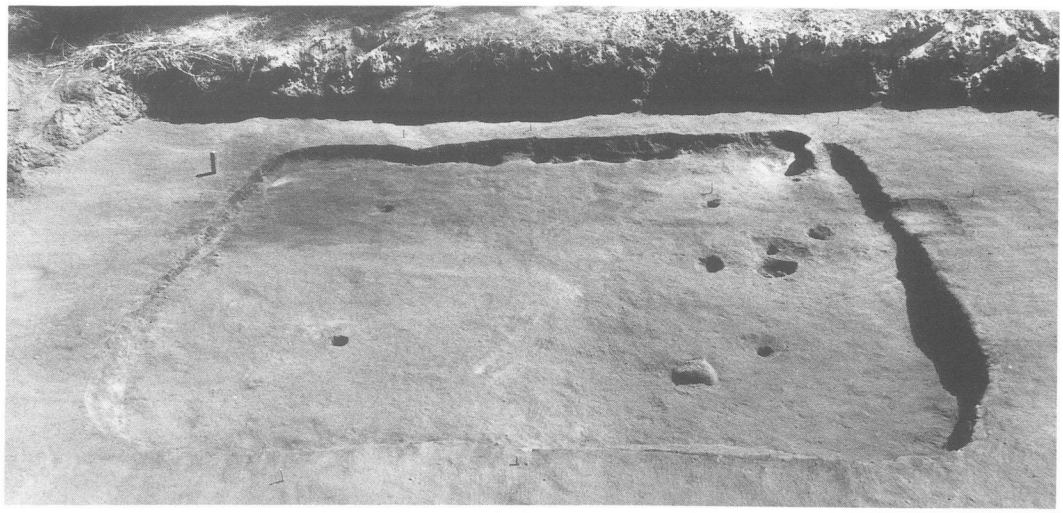
芝宮遺跡群と上宮原遺跡群は、佐久市の北部の「田切り地形」と呼ばれる帯状低地に挟まれた帯状台地上面に展開する大遺跡群である。芝宮遺跡は芝宮遺跡群の西端、標高729mの微高地斜面に展開する。また上宮原遺跡は近津遺跡群の東端小諸市境、標高734mの微高地斜面に展開する。

調査概要

下芝宮遺跡からは、古墳時代後期の竪穴住居址２軒と掘立柱建物址１棟、溝状遺構１条が検出された。２軒の住居址の内Ｈ７号住居址は北約１／４のみが検出された。カマドは新旧２箇所が検出され、煙道部が残存していた。遺物は土師器の甕と坏が出土した。掘立柱建物址はほぼ半分のみの検出で、所産期は古墳時代の後期と推定される。溝状遺構は下芝宮遺跡Ⅲで検出された溝と同一遺構と考えられる。

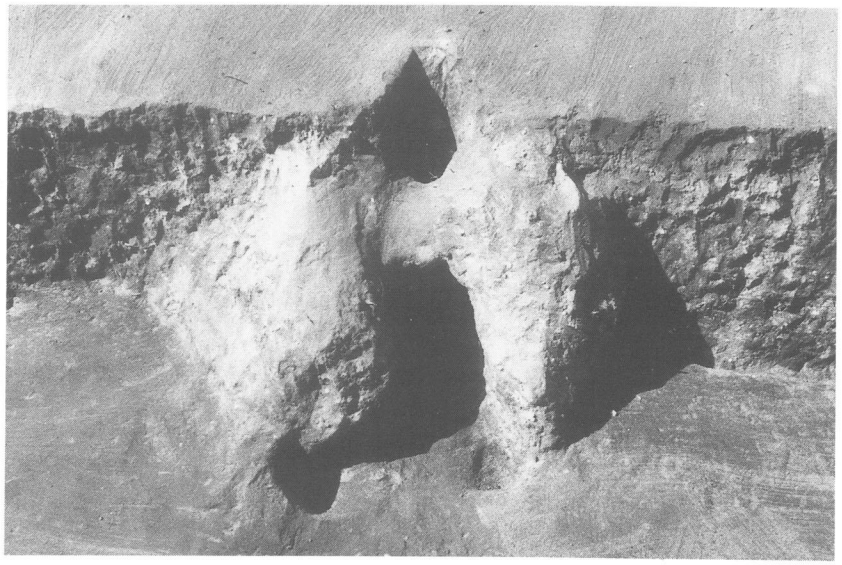
上宮原遺跡からは、平安時代の後期と考えられる竪穴住居址１軒のみが検出された。カマドは住居址東南隅において検出されたが、残存状況はきわめて悪く、袖の一部か辛うじて残るのみであった。遺物の量は少なく、土師器の甕と坏、羽釜、灰釉陶器、須恵器の甕等が出土したが、いずれも破片ばかりで図示が可能な遺物はなかった。また本住居址は焼失住居址で床面より炭化材が検出された。

下芝宮遺跡は、昭和62年度より今回までに計４回調査され、住居址９軒、掘立柱建物址６棟、溝状遺構11条、特殊遺構１基、土坑13基が検出された。



上宮原遺跡　Ｈ１号住居址（西方より）

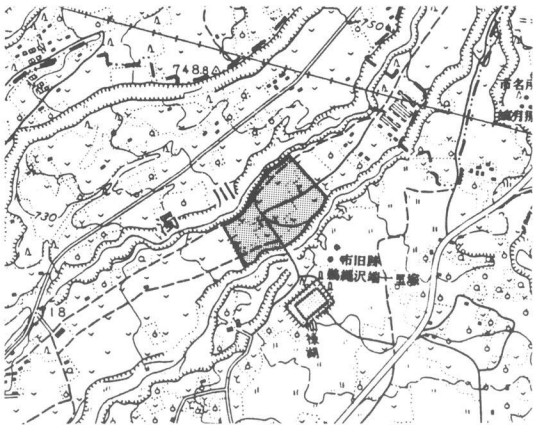
下芝宮遺跡Ⅳ　Ｆ１号掘立柱建物址（北方より）



下芝宮遺跡Ⅳ　Ｈ７号住居址カマド

長土呂遺跡群聖原遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字長土呂字上聖端
佐久市大字長土呂字新城外
調査委託者　佐久市土地開発公社
開発事業　佐久流通業務団地造成事業
調査期間　平成2年4月9日～12月7日
調査面積　23,300㎡
調査担当者　三石宗一、小林真寿、
翠川泰弘、助川朋広



立地と経過

聖原遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓末端部地域に所在する。この地域は御代田方面から南西にのびる田切り地形が非常に発達しており、この田切りに挟まれた台地上には東から栗毛坂遺跡群・枇杷坂遺跡群・長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群・近津遺跡群・西近津遺跡群などが展開しており、佐久市でも有数な遺跡群が密集している地域である。聖原遺跡は長土呂遺跡群のほぼ中央部に位置し、標高734～742m付近を測り、南西に向かって緩やかに傾斜している。また、両側の田切りとの比高差は10～15mを測る。

調査概要

平成２年度に発掘調査を行った聖原遺跡Ⅲは、平成元年度に33,000㎡の調査を実施した聖原遺跡Ⅰの継続事業であり、調査面積は23,300㎡である。また、平成３年度は聖原遺跡Ⅳの調査が実施され、平成元年度からの３ヵ年で約67,300㎡の発掘調査が行われた。また、今後さらに平成４年度・平成５年度にわたって発掘調査が計画されており、佐久流通業務団地造成事業に伴う調査面積は約87,000㎡に及ぶ広大なものである。

聖原遺跡Ⅲで検出された遺構は竪穴住居址251棟、掘立柱建物址266棟、その他土坑、溝状遺構、粘土坑、ピット群等であり、平成元年度の聖原遺跡Ⅰ、昭和63年度の上聖端遺跡を加えると竪穴住居址約700棟、掘立柱建物址約530棟にのぼる。また、出土遺物についても聖原遺跡Ⅰで約300箱、聖原遺跡Ⅲで約200箱の遺物が出土しており、合計約500箱という膨大な数である。

特筆すべき遺物としては、聖原遺跡Ⅰにおいて「伯万私印」の印文が刻まれた石製印が発見されているが、聖原遺跡Ⅲにおいても八陵鏡・銅製の鈴等の貴重な発見があった。

聖原遺跡Ⅰ・Ⅲ　上聖端遺跡概略図

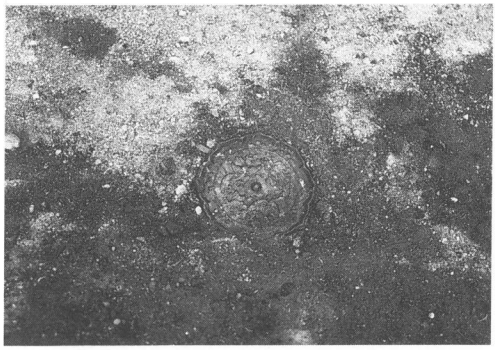
聖原遺跡付近航空写真（株式会社協同測量社撮影）

4A・4B地区航空写真（株式会社協同測量社撮影）

5A・5B・5D地区航空写真（株式会社協同測量社撮影）

5A・5B・5C・5D地区航空写真（株式会社協同測量社撮影）

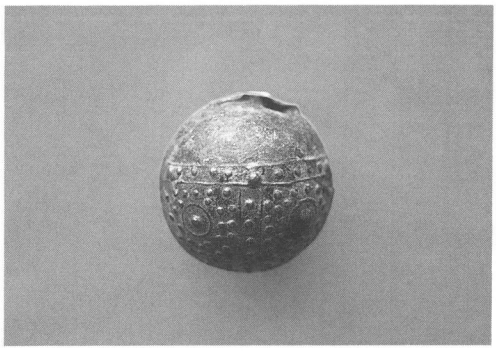
第615号住居址



第615号住居址　八陵鏡出土状況

第615号住居址　出土八陵鏡

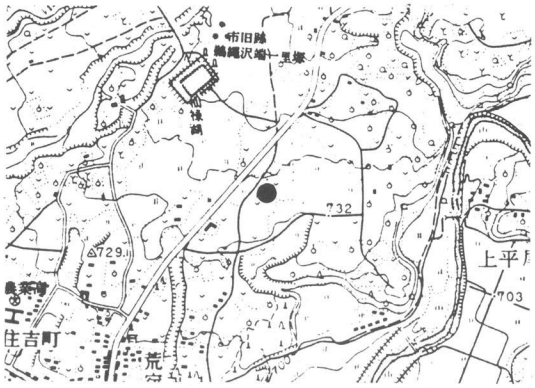
第499号住居址銅鈴出土状況



第499号住居址出土銅鈴

栗毛坂遺跡群赤座垣外遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田3632―9外
調査委託者　佐久市（土木課）
開発事業　市道2―8号線道路改良
調査期間　平成２年９月18日～11月26日
調査面積　4,000㎡
調査担当者　林　幸彦



経過と立地

赤座垣外遺跡は、佐久市の北部の栗毛坂遺跡群南西部にあり、標高735m内外を測る。

過去、六供後、芝間、柳田、上久保田向、曽根新城、更には、長野県埋蔵文化財センターによる栗毛坂遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ等の各遺跡が発掘調査され、縄文・古墳・奈良・平安時代の遺構が検出された。

平成２年、佐久市土木課により市道２―83号線の道路改良が行われることとなり、遺跡の記録保存が必要となり、緊急発掘調査を実施するはこびとなった。

調査概要

検出された遺構は、竪穴住居址18棟、掘立柱建物址５棟、土坑が14基、溝状遺構が13条であった。検出された住居址を年代別にみると古墳時代後期が４棟、奈良時代２棟、平安時代10棟であり、古墳時代後期～平安時代に展開された遺跡であることが認められた。また、住居址の検出状況を地形的にみると、当調査区の中央付近は、南東に向かうなだらかな傾斜地が約30m程続き、そこから東側は低地形となり、西側は平坦地形となっている。今回検出された18棟の大多数は「なだらかな傾斜地」に集中して分布していたことが認められた。

土坑は14基が確認され、内２基は、過年調査を行った池畑遺跡（佐久市安原字池畑）の第１号土坑で考察された農耕儀礼に関わる「畜獣埋葬」の形態に酷似した土坑であることが推察された。他に、特異な掘り方形態を示す土坑が２基認められ、その状況、及び、断面から「粘土採掘坑」であることが推測された。

溝状遺構は13条確認されたが、その内の１条は、石並城（大井城）に関係する「堀」であることが推察された。調査地の南約150mには、六供後遺跡、石並城跡が所在し、昭和61年に調査が行われた。この際、六供後の調査では幅６m、深さ1.6mの堀が検出されている。

赤座垣外遺跡全景（東方から）

赤座垣外遺跡（東方から）

西近津遺跡群三貫畑遺跡

所　在　地　佐久市大字長土呂字三貫畑1919-1外

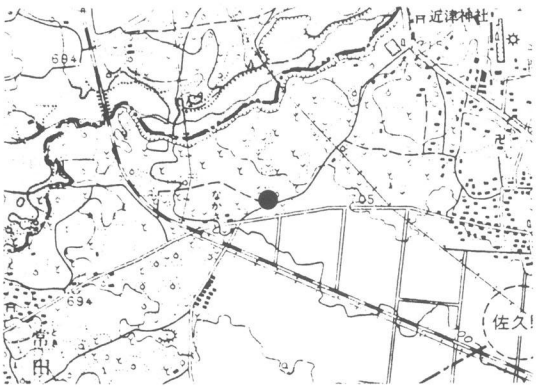
調査委託者　佐久市（土木課）

開発事業　市道8-1線道路改良

調査期間　平成2年10月9日～10月20日

調査面積　1,225㎡

調査担当者　高村博文



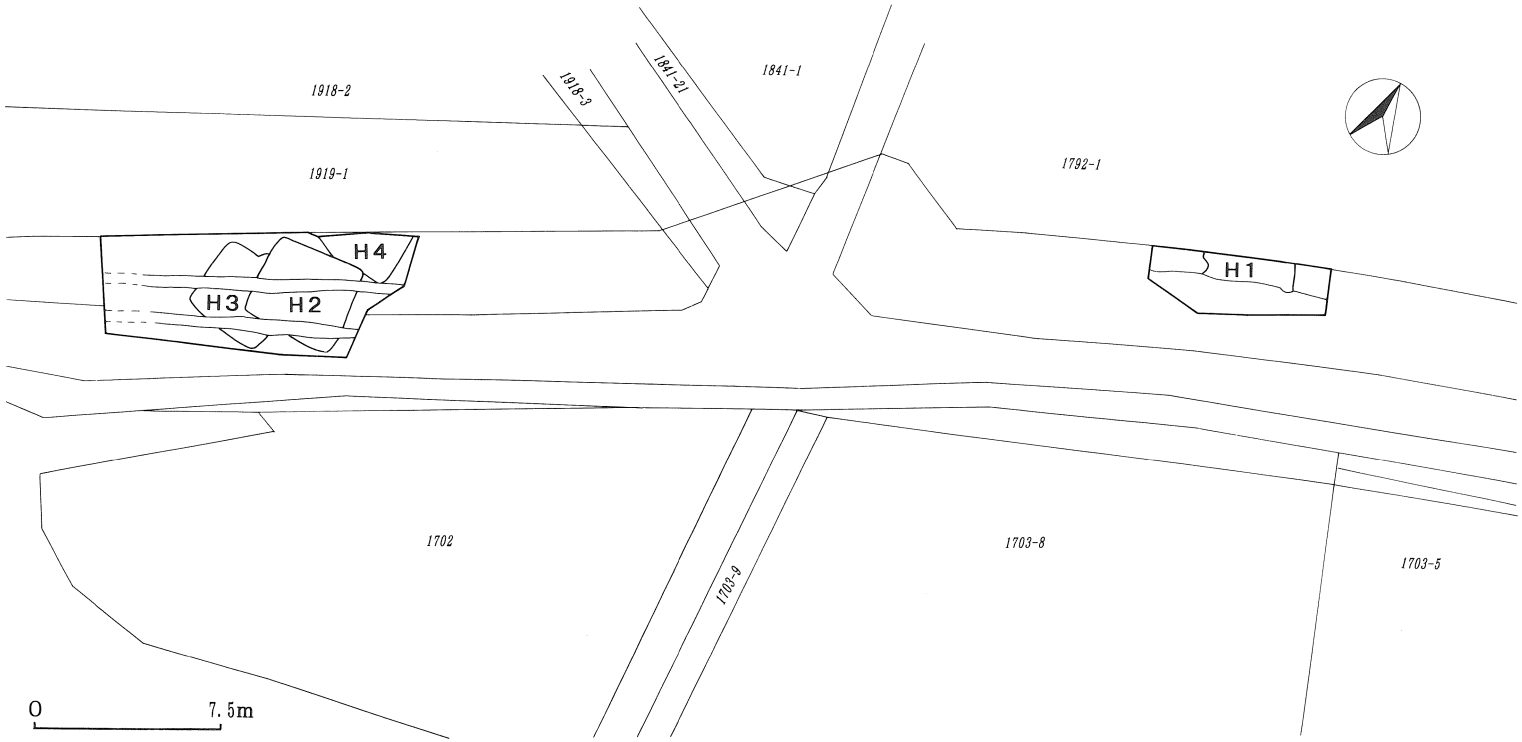
経過と立地

三貫畑遺跡は、佐久市長土呂地籍に所在し、御代田方面から南西に放射状に伸びる田切り地形の終末部分で、東方の周防畑遺跡群、西方の西近津遺跡群に挟まれた小田切り地形に存在し、西近津遺跡群の東側縁辺に含まれると考えられ、標高は700～704m前後を測る。周防畑遺跡群・西近津遺跡群は佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると、いずれも縄文時代から平安時代の複合遺跡であり、昭和46年度西近津遺跡、昭和54年度周防畑Ａ遺跡、昭和55年度周防畑Ｂ遺跡、昭和58年度若宮遺跡等の発掘調査が実施され、弥生時代から平安時代の遺構が多数検出された。また、昭和63年度には、今回の道路の東部分の道路改良にともない森下遺跡の調査が実施されており、弥生時代から平安時代の住居址20棟が検出されている。

今回、佐久市土木課が行う市道８－１号線道路改良工事に伴い、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、拡幅工事に先立ち発掘調査を行い、記録保存する必要が生じた。

調査概要

今回の調査により、弥生時代、奈良・平安時代の竪穴住居址が４棟検出された。西近津遺跡群内では、西近津遺跡・森下遺跡の調査でも弥生時代から平安時代の集落址が検出されており、本遺跡群は佐久市でも有数な複合遺跡であり、本調査で新たなる資料が追加されたことになろう。


1918-2
1919-1
1918-3
1841-21
1841-1
1792-1
H4
H3
H2
H1
1702
1703-9
1703-8
1703-5
0
7.5m

三貫畑遺跡遺構全体図

枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ、曽根新城遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字中久保田187-2外

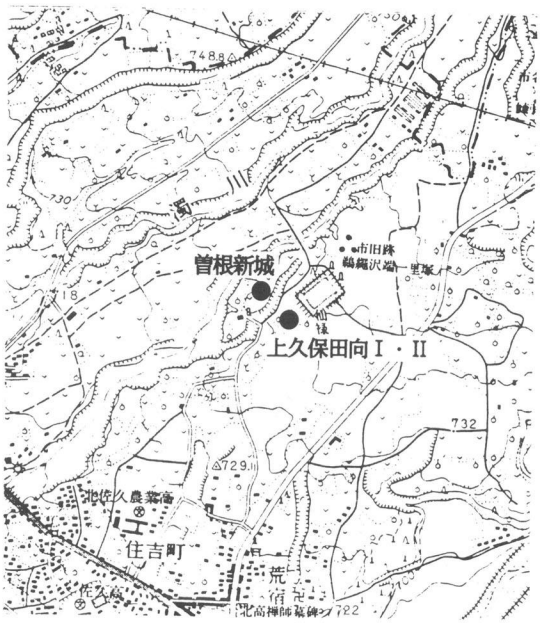
調査委託者　佐久市（区画整理課）

開発事業　佐久市都市計画岩村田北部第一土地区画整理事業道路建設

調査期間　上久保田向遺跡Ⅰ
平成２年８月17日～10月16日
上久保田向遺跡Ⅱ
平成２年９月１日～10月３日
曽根新城遺跡
平成２年９月11日～11月20日

調査面積　上久保田向遺跡Ⅰ　2,000㎡
上久保田向遺跡Ⅱ　400㎡
曽根新城遺跡　2,250㎡

調査担当者　須藤隆司



経過と立地

曽根新城遺跡・上久保田向遺跡は、浅間山南麓末端部の田切り地形が発達した地域に所在し、両遺跡は浅い田切りによって画された隣接する台地上に立地している。また、蟹沢の深い田切りによって画された曽根新城遺跡の北側の台地上に聖原遺跡が位置している。

調査概要

曽根新城遺跡・上久保田向遺跡の調査は、佐久市都市計画岩村田北部第一土地区画整理事業に先立つ緊急発掘調査であり、平成元年度から継続して実施されている。

曽根新城遺跡　平成元年度と２年度の２回の調査によって、仙禄湖線と称される道路建設範囲が調査されている。検出された遺構は、竪穴住居址10棟、掘立柱建物址１棟、溝址１条、土坑６基である。竪穴住居址は平安時代のものであり、９世紀から11世紀に及ぶ。特に11世紀後半と考えられる竪穴住居址において、Ｌ字形を呈する特殊な大形住居址が２棟検出されており、今後、

曽根新城遺跡・上久保田遺跡航空写真

その住居構造の分析を中心に、平安時代後半の住居形態の在り方、集落形態の在り方に新たな視点が提示できるものと思われる。

上久保田向遺跡　本遺跡では平成元年度と2年度の2回の調査によって、仙禄湖線と称される道路建設範囲が調査され、平成2年度に6－9号線と称される道路建設範囲が調査されている。仙禄湖線の調査区を上久保田向遺跡Ⅰ、6－9号線の調査区を上久保田向遺跡Ⅱと便宜的に呼称している。

上久保田向遺跡Ⅰでは、竪穴住居址9棟、掘立柱建物址9棟、溝址4条が検出されている。竪穴住居址は平安時代のものであり、9世紀代、特にその後半が主体を占めている。

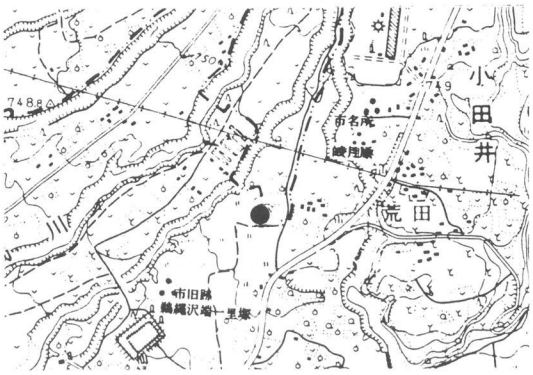
上久保田向遺跡Ⅱでは、竪穴住居址2棟、掘立柱建物址3棟、炉址1基が検出されている。竪穴住居址は、平安時代、9世紀前半のものである。炉址としたものは、焼土、炭化物片の径60㎝程の集中範囲として把握され、黒曜石原石2点、剥片1点が検出されている。また、竪穴住居址等からも、黒曜石原石6点が得られている。黒曜石原石は、長さ4～5㎝、厚さ1～2㎝の縦長剥片状をなすいわゆるズリと称しているものである。これらをすべて原位置に復元することはできないが、縄文時代の野営地における黒曜石原石の貯蔵の在り方として評価できるものであろう。

曽根新城遺跡　H11号住居址（9世紀前半）

曽根新城遺跡　H７号住居址（11世紀）

栗毛坂遺跡群上曽根遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字上曽根
調査委託者　（株）長野県酒類販売佐久支店
開発事業　倉庫等建設
調査期間　平成２年４月17日～４月24日
調査面積　850㎡
調査担当者　林　幸彦



経過と立地

1989年度（平成元年）には、南西に隣接する西曽根遺跡が雇用促進住宅建設に先立って発掘調査され、奈良時代の竪穴住居址２棟、掘立柱建物址17棟等が検出された。

翌1990年、長野県酒類販売株式会社佐久支店の倉庫・事務所等が建設されることになり、遺跡の保護処置が必要となった。このため第１次調査を実施し、遺構の存在の有無、性格等を把握し、その結果を得て建設等により破壊される部分について本調査を行うこととなった。

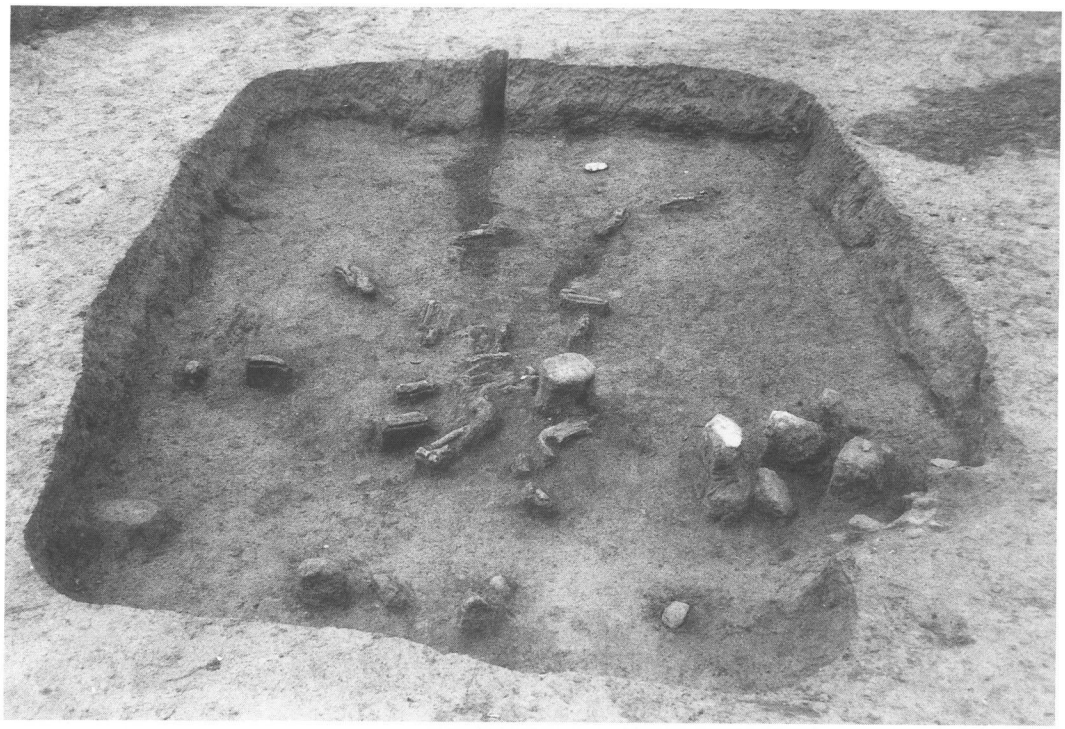
上曽根遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓末端部の南西に放射状にのびる田切り地形に挟まれた栗毛坂遺跡群の北部に位置し、標高774mを測る。

調査概要

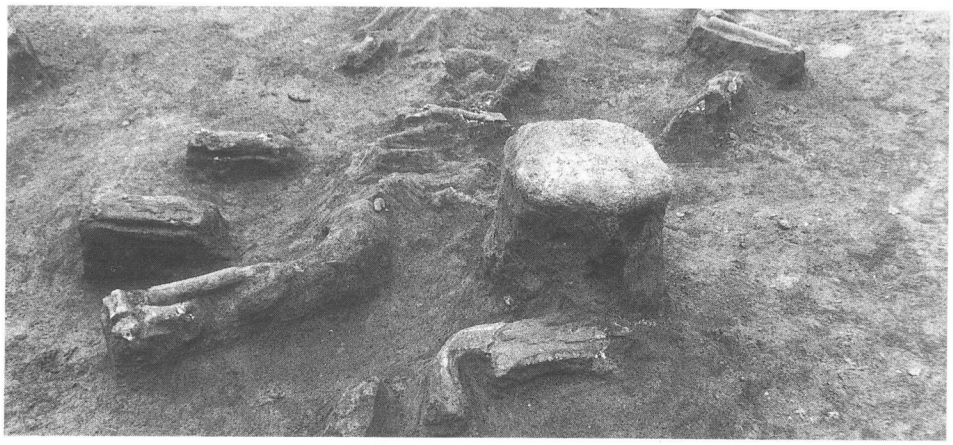
建造物により破壊の影響を受ける範囲からは、竪穴住居址（平安時代後半）が１棟、他に、掘立柱建物址（古墳時代以前）、及び、ピット群が検出された。

出土遺物は、竪穴住居址から煮沸具４点、土師質土器１点、有孔石製品１点が出土した。このうち、煮沸具４点の内訳は、鍋２個体、羽釜片２点であり、いずれもカマド内からの出土であった。これら４点は非ロクロ成形であり、鍋２個体の外面底部（火受け部）の胎土中には意図的に砂が多く混在しており、火熱からの強度を促す調整がなされている。また、羽釜片の１点は「鍔」が全周せず、とぎれていると思われるものであった。他に、本址からは、ほぼ全身におよぶ馬骨が検出され、頭部の上には計28×18cmの礫が載った状態で出土したことなどから、埋葬に伴う可能性も考えられるものであった。

一方、破壊の影響がない区域からは、重複関係にある竪穴住居址が検出された。両址については完掘の調査は行わず、遺構の確認調査のみにとどめた。確認時におけるプラン状態、遺物等から平安時代初頭の住居址が、古墳時代後期の住居址を破壊していることが認められた。



Ｈ１号住居址遺物出土状況



Ｈ１号住居址馬骨出土状況

Ｈ１号住居址出土鍋

Ｈ１号住居址出土鍋

蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡

所　在　地　佐久市大字新子田字野馬久保1928−2

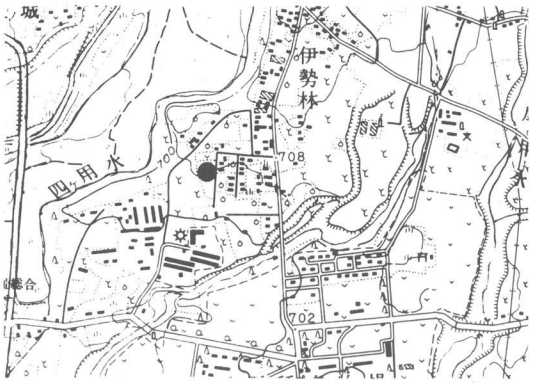
調査委託者　（株）与志本林業

開発事業　宅地造成

調査期間　平成３年１月16〜29日

調査面積　2,931㎡

調査担当者　羽毛田卓也



経過と立地

蛇塚B遺跡群は、佐久市の中央やや東寄り、浅間山に源を発する湯川の河岸段丘最上面に位置し、安原付近より南下しと湯川に挟まれた標高700〜715mの帯状微高地上に展開する平安時代を主とする遺跡群である。野馬久保遺跡は、本遺跡群南西端標高705〜706m、南西方向に緩やかに傾斜する微高地端に位置する。

調査概要

野馬久保遺跡からは、平安時代の竪穴住居址１軒と時代不明の溝状遺構２条が検出された。

住居址は、小規模で南北293cmの東西297cmを測り方形を呈する。カマドは東壁中央やや南寄りで検出された。袖部は完全に破壊されていたが、煙道部の残存状況は良好であった。煙道部は浅間山系安山岩により方形に構築されていた。遺物は土師器・須恵器の甕と坏、墨書土器（土師器）２点、灰釉陶器２点、刀子、麻引鉄、鉄滓等が出土した。刀子は全長25.9cmを測る大形完形製品である。

２条の溝状遺構の内、空堀状の大溝からは底部以外は完形で平安時代中頃と考えられる須恵器大甕が出土した。

住居址は、ロクロ土師器の坏・高台付坏・甕が主体をしめること、頸部「コ」の字形態の甕の消失、須恵器坏の消失等により平安時代中期と考えられる。また、本住居址の伴う集落は、地形や検出位置等から鑑みて調査区の西側に展開すると推測される。

野馬久保遺跡　Ｈ１号住居址（南方より）

野馬久保遺跡　Ｈ１号住居址カマド

石並城跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字石並3503外

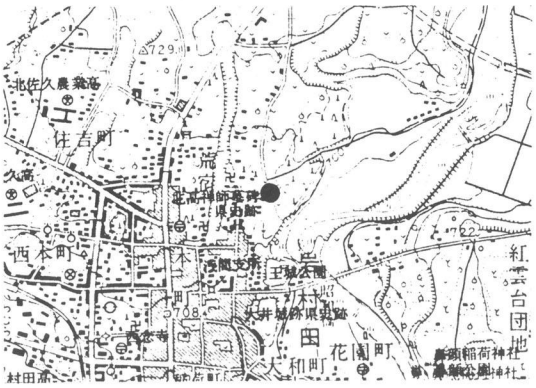
調査委託者　（株）森泉建設工業

開発事業　宅地造成

調査期間　平成2年12月13日～
平成3年1月11日

調査面積　976㎡

調査担当者　高村博文



経過と立地

石並城跡は佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高716～726mを測る。城跡は蛇行しながら南流する湯川の西岸の第２段丘上に北から石並城跡・王城跡・黒岩城跡とほぼ直線的に南北に連なって大井城跡を形成している。大井城跡は佐久市有数の城跡であり、王城跡・黒岩城跡は県の史跡に指定されている。当教育委員会は、この石並城跡をなんとか現状保存することを考え、一度は宅地造成の計画を長野県教育委員会文化課の指導のもとに協議し、開発を思いとどまらせることができたが、再度、森泉建設工業株式会社により開発の計画が持ち上がった。

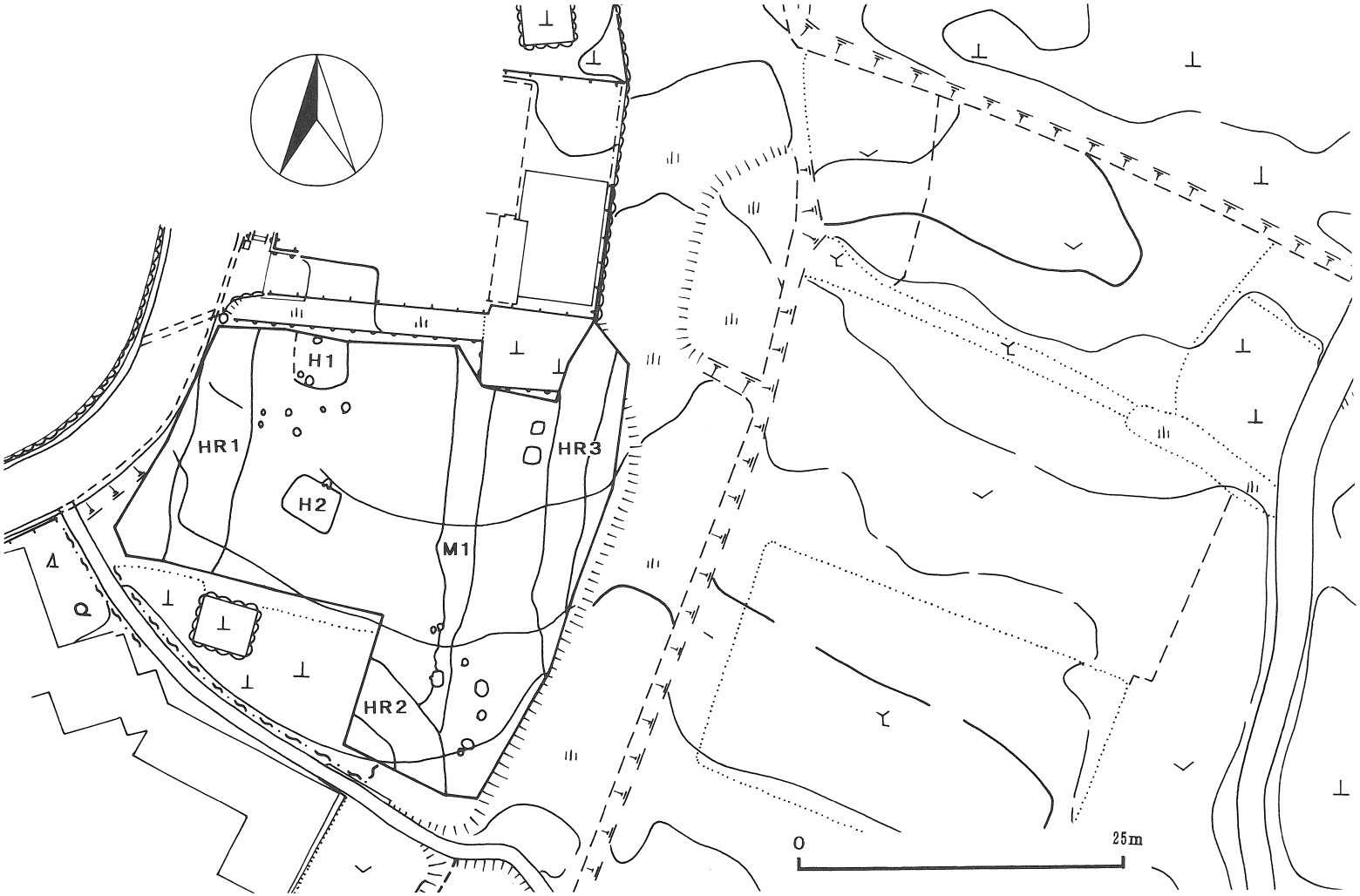
今回、森泉建設工業株式会社が計画している宅地造成地区は、石並城跡の外郭に当たるものと考えられる。また、当該地は岩村田遺跡群内に含まれていることから弥生時代から平安時代の遺構の存在している可能性も高く、国庫補助金で全面試掘を実施し、遺構の存在が確認されたため森泉建設工業株式会社と保護協議を行い、発掘調査を実施することとなった。

調査概要

今回、石並城跡において検出された遺構は、堀址３条、溝状遺構１条、土坑４基、ピット13基、住居址２棟等であり、出土遺物は、弥生土器、土師器、近世・近代陶磁器である。

今回の調査は石並城跡の外郭部分にあたる約1,000㎡弱の発掘調査であったが、地上（現地表面）ではうかがい知ることのできなかった堀址が幾重にも存在することが解明され、また、城跡として利用される以前も弥生時代～古墳時代にかけて集落址として、生活居住地域であったことが判明したのは大きな成果であった。

今後の地域研究の基礎資料として大変価値のある資料となろう。



石並城址遺構全体図（1：500）

鳴沢遺跡群上屋敷遺跡

所　在　地　佐久市大字根々井字上屋敷
544-1外

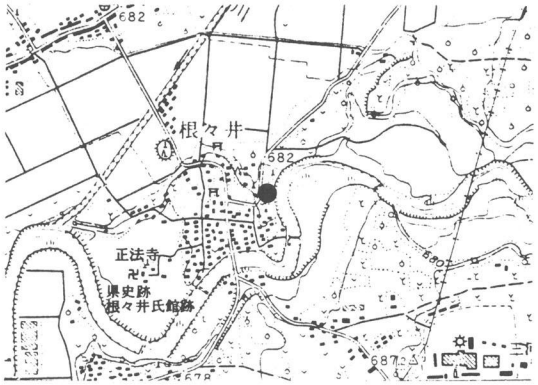
調査委託者　（株）石井商会

開発事業　宅地造成

調査期間　平成２年10月18日

調査面積　50㎡

調査担当者　高村博文



経過と立地

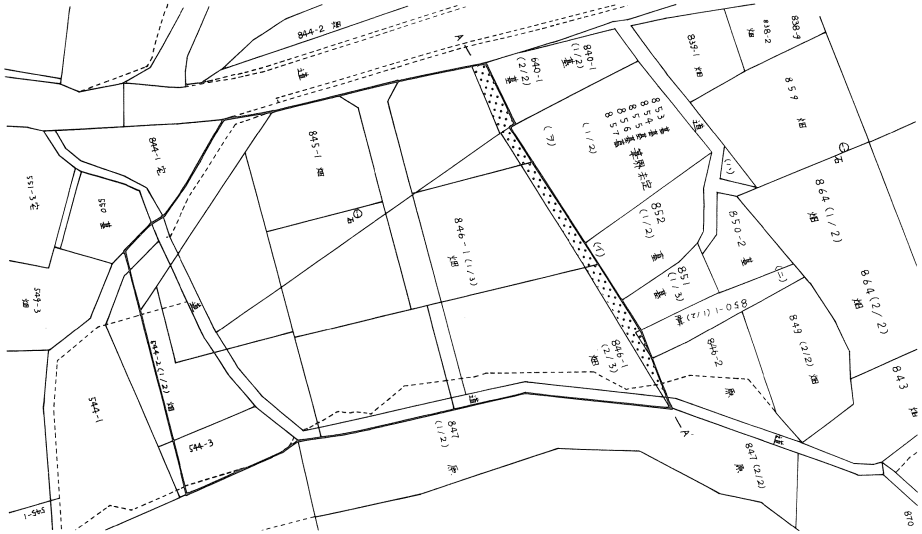
上屋敷遺跡は、佐久市根々井に所在し標高671～682mを測る。佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文から平安時代の遺構の存在が予想される。

今回、石井商会株式会社が行う建売住宅建設事業にともない遺跡の破壊が余儀なくされる事態となった。10月４日付けで文化財保護法57条の２第１項の届出がなされ、立会い調査を実施することが決定していた。10月17日に当課に午前10時から工事にはいるという連絡があったので専門職員が現地に出かけたところ、すでに工事が行われており、遺構が破壊されていた。すぐに石井商会に連絡をとり今後の処置について協議をし、図面の提出・破壊後の調査の実施・顛末書の提出の３項目にわたる指導をし、今後このようなことがないよう厳重に注意を行った。

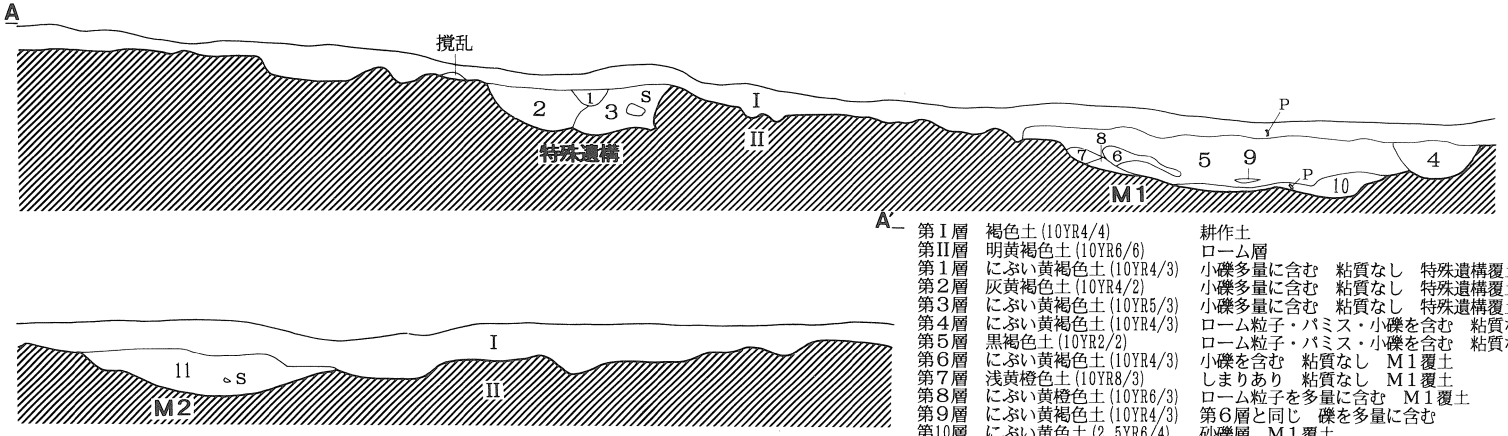
以上の経過から、遺跡破壊後の調査を実施することとなった。

調査結果

調査対象地内は、既に重機によりほとんど破壊されており、調査は造成地北側南面のセクションを精査する作業のみであった。精査を実施した結果、溝２基と平面形態が不明であるため特殊遺構とした遺構１基が検出された。溝からは弥生時代後期の土器が多量に出土し、あるいは、周溝墓か環濠の可能性がある。また破壊された廃土の中からも弥生時代後期の土器が多く表採でき、弥生時代の遺構の存在した可能性も高い。

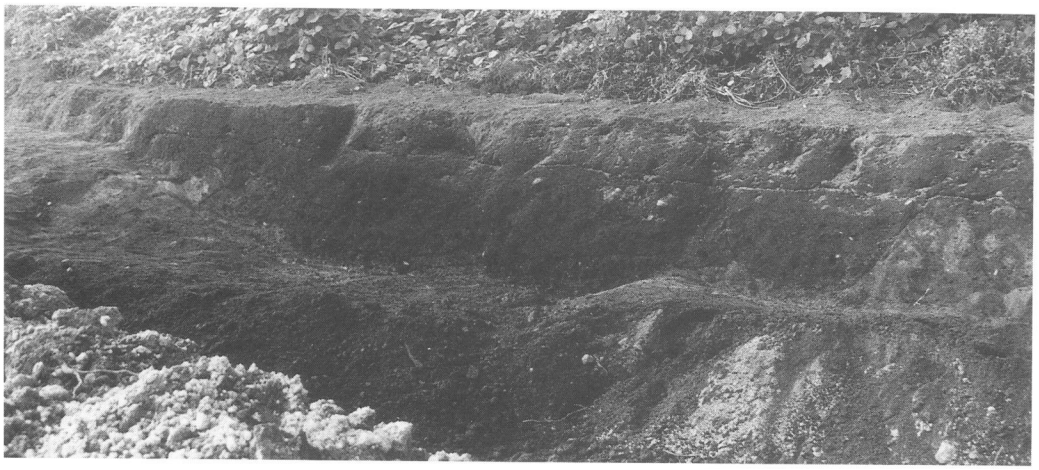


上屋敷遺跡調査区（1：1,000）



第Ⅰ層	褐色土(10YR4/4)	耕作土
第Ⅱ層	明黄褐色土(10YR6/6)	ローム層
第1層	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	小礫多量に含む　粘質なし　特殊遺構覆土
第2層	灰黄褐色土(10YR4/2)	小礫多量に含む　粘質なし　特殊遺構覆土
第3層	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	小礫多量に含む　粘質なし　特殊遺構覆土
第4層	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子・パミス・小礫を含む　粘質なし
第5層	黒褐色土(10YR2/2)	ローム粒子・パミス・小礫を含む　粘質なし
第6層	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	小礫を含む　粘質なし　M1覆土
第7層	浅黄橙色土(10YR8/3)	しまりあり　粘質なし　M1覆土
第8層	にぶい黄橙色土(10YR6/3)	ローム粒子を多量に含む　M1覆土
第9層	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	第6層と同じ　礫を多量に含む
第10層	にぶい黄色土(2.5YR6/4)	砂礫層　M1覆土
第11層	黒色土(10YR2/1)	小礫を多量に含む　粘質なし　M2覆土

上屋敷遺跡調査区南面セクション図（1：160）



M１断面

M２断面

T１断面

上屋敷遺跡全景 1（南方から）

上屋敷遺跡全景 2（南方から）

鷺の宮遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字瀬戸字鷺の宮
調査委託者　佐久市（土木課）
開発事業　市道31-1号線道路改良
調査期間　平成２年11月８日
調査面積　100㎡(928.97㎡)
調査担当者　高村博文

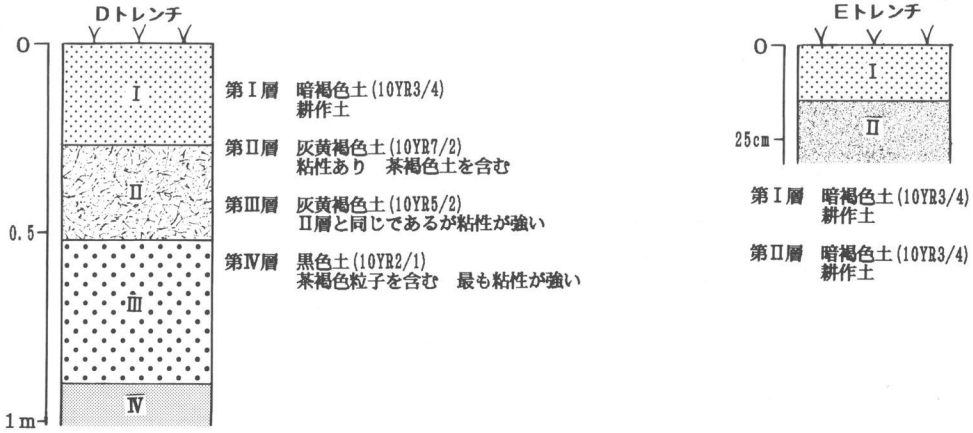
経過と立地

鷺の宮遺跡Ⅱは、佐久市瀬戸に所在し標高678～686mを測る。本遺跡は縄文・平安時代の遺構の存在が予想される。

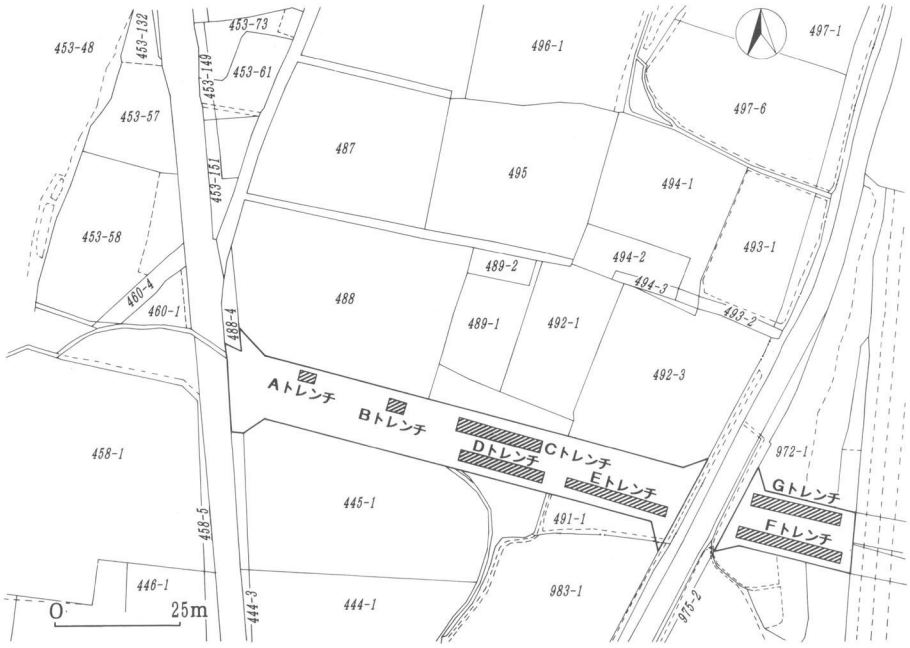
今回、佐久市土木課が行う市道31－１号線道路改良工事に伴い遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、試掘調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じた。

調査結果

開発対象地内に、A～Gトレンチを設定して調査を実施した結果、ローム層がみられたのはEトレンチ内だけで、その西方は２m20cm掘り下げてもローム層がみられず沢地とおもわれる。F・Gトレンチ内は礫層で志賀川により形成されたものと考えられる。遺物の出土がなく遺構の存在する可能性はうすい。

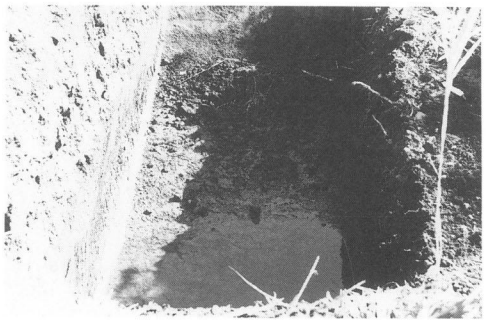


鷺の宮遺跡Ⅱ　基本土層模式図

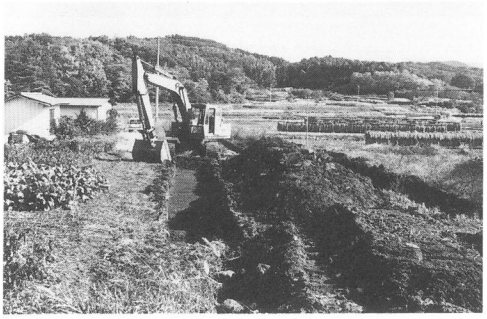


鷲の宮遺跡　トレンチ設定図

遺跡近県（東方より）



Bトレンチ（東方より）



C・Dトレンチ（西方より）

Gトレンチ（西方より）

中込新町遺跡

所　在　地　佐久市大字中込字用水口
字南畑外

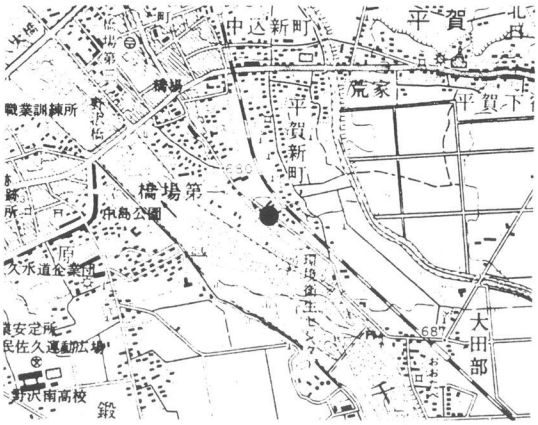
調査委託者　佐久建設事務所

開発事業　（国）都市計画街路中込・田口線道路改良

調査期間　平成２年10月29日

調査面積　300㎡(3,100㎡)

調査担当者　高村博文



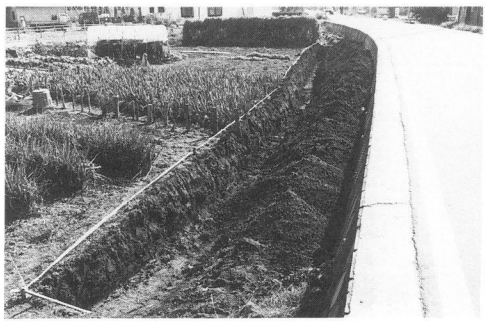
経過と立地

中込新町遺跡は、佐久市中込に所在し標高670～680mを測る。本遺跡は奈良・平安時代の遺構の存在が予想される。

今回、佐久建設事務所が行う（国）都市計画街路中込・田口線道路改良事業に伴い遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、試掘調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じた。

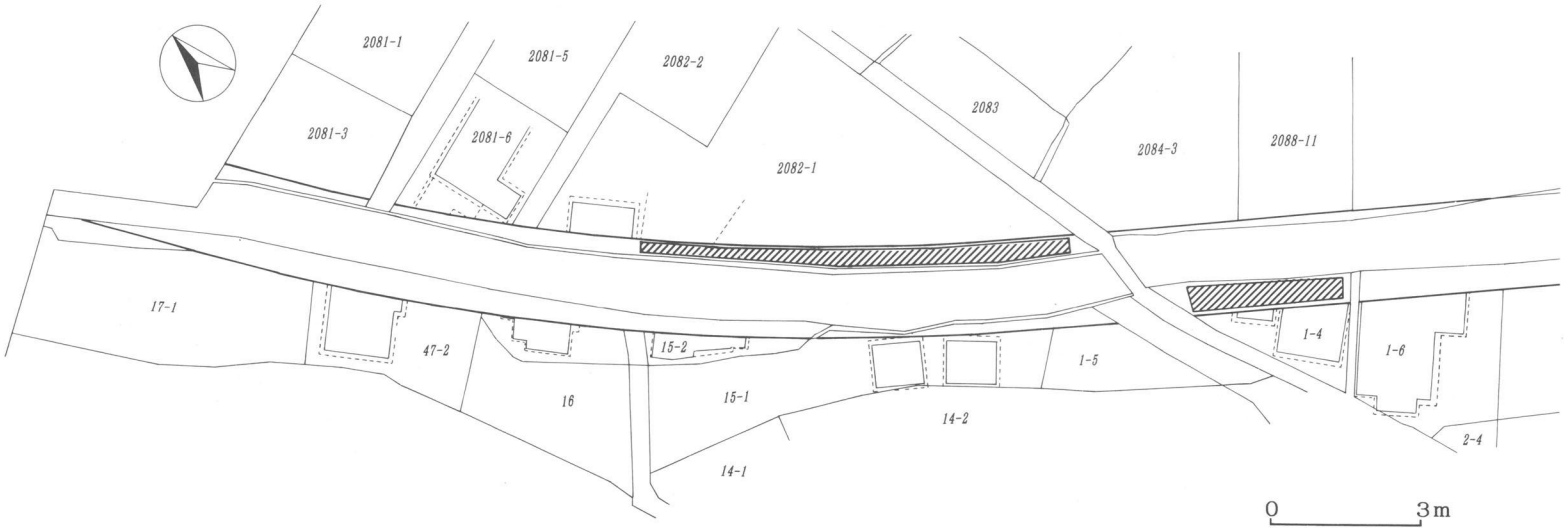
調査結果

調査対象地内は、宅地の出入口、建物等、障害物が多くトレンチの設定がしにくかった。障害物の少ない地区にＡ・Ｂの２本のトレンチをいれて調査を実施した結果、千曲川の氾濫源と思われる砂礫層が検出され、遺構・遺物の検出はみられなかった。

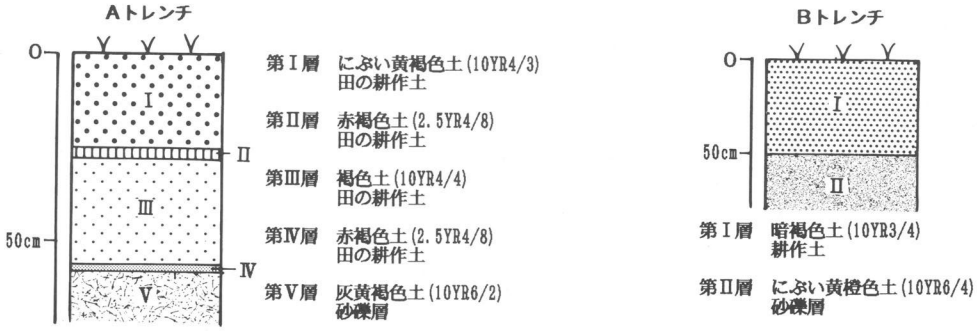


Ａトレンチ状況（北方より）

Ｂトレンチ状況（南方より）



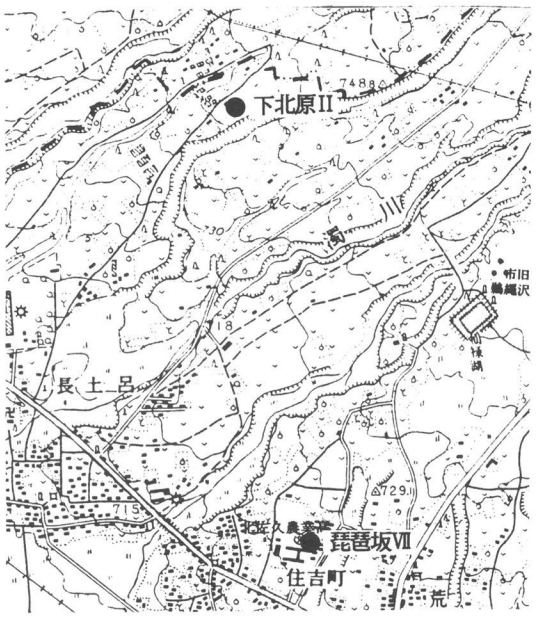
中込新町遺跡トレンチ設定図（1：1,500）



中込新町遺跡基本土層模式図

枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡ⅦA地点・周防畑遺跡群下北原遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字岩村田
佐久市大字長土呂
調査委託者　長野県立北佐久農業高校
開発事業　琵琶坂遺跡ⅦA
ガラス温室棟他建設
下北原遺跡Ⅱ
管理宿舎棟・牛豚舎他建設
調査期間　平成２年７月３～４日
調査面積　琵琶坂遺跡ⅦA
30㎡(300㎡)
下北原遺跡Ⅱ
1,000㎡(6,000㎡)
調査担当者　高村博文



経過と立地

琵琶坂遺跡Ⅶは、佐久市岩村田枇杷坂遺跡群内に位置し、標高は717～720mを測る。昭和53年度プール建設、昭和55年度園芸学習棟建設及び体育施設、昭和58年度農業学習棟建設、昭和60年度体育館建設、昭和63年度に自転車置き場新設事業時に調査がなされており、６次にわたっている。

昭和53年度の立会い調査では、遺構・遺物は確認されず、湿地状の堆積層がみられた。昭和55年度の立会い調査では、約２m程深掘りしたが、全層砂礫層と有機質を多量に含む黒色土層との互層であった。昭和58年度の立会い調査では、地表下30～60cmで黄色・白桃色の浅間山の火山堆積層に属しており、以上の事から北佐久農業高校敷地の南東部においては、北東から南西に向けての旧河川、または、低湿地が存在していたことが判明し、プールより以西は北東から微高地が隣接する上直路遺跡に連続していることが推測できた。昭和60年度の第５次調査では弥生時代後期の住居址２棟、古墳時代後期の住居址３棟が検出されている。

今回、北佐久農業高校によるガラス温室棟・ガラス温室水稲栽培棟建設により遺跡の破壊が余儀なくされる事態となった。

下北原遺跡は、佐久市長土呂周防畑遺跡群内に位置し標高740～742mを測る。国道141号バイパ

ス建設で平成元年度調査を実施したが遺構は検出されなかった。

今回、北佐久農業高校により、管理宿舎棟・牛豚舎棟・乾草収納庫建設により遺跡の破壊が余儀なくされる事態となった。

そこで、試掘調査を実施し、遺跡の状況を把握し、遺構の存在が確認された場合は再協議とすることとなった。

調査結果

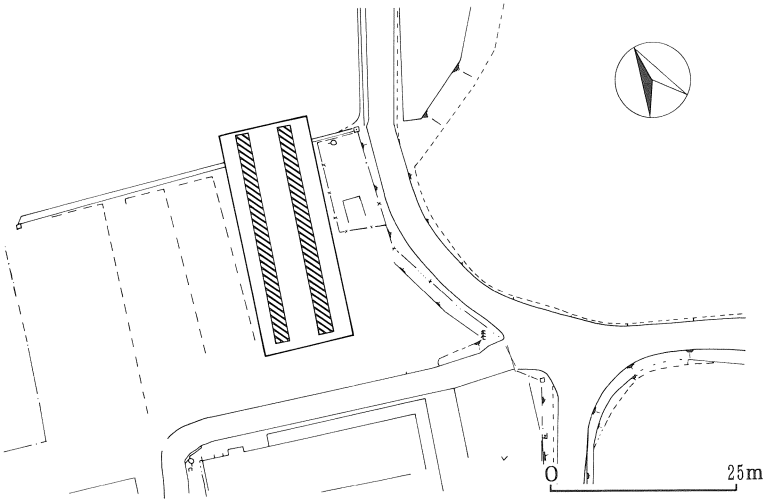
琵琶坂遺跡ⅦA地点　調査対象地内に2本のトレンチをいれ、遺構の存在を確認した。

約10cmの耕作土の下から、約20cmの河川の氾濫によると思われる堆積層が存在したが時期は不明であった。その下層約70cmは黒色の堆積層で、B地点でも確認されたこの地域一帯に存在する地層であろう。この黒色土層からも遺物の出土はなく、ローム層まで確認面を掘り下げたが、遺構・遺物の検出はみられなかった。

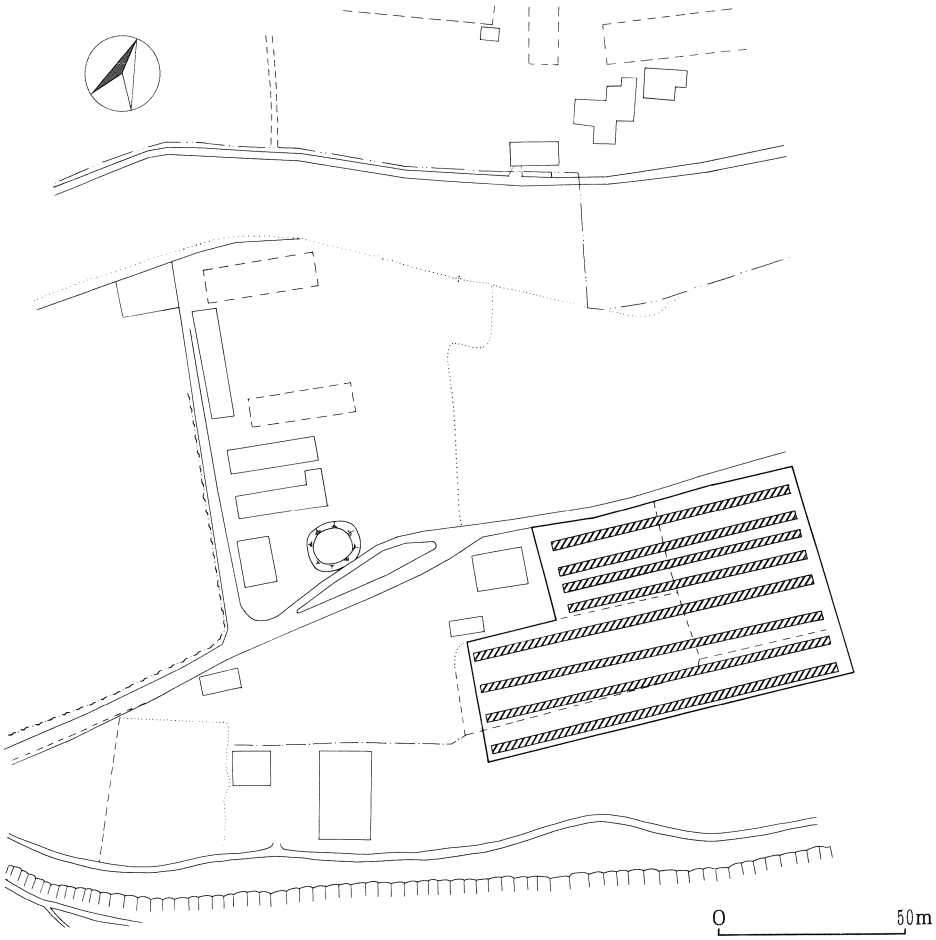
下北原遺跡Ⅱ　調査対象地内に8本のトレンチをいれ遺構の存在を確認した。

約40cmの耕作土の直下からローム層が検出された。時期不明の土坑状の落込みが確認されたが、遺物の出土がなく発掘調査を実施して確認をしなければならないほどの落込みではないと判断した。

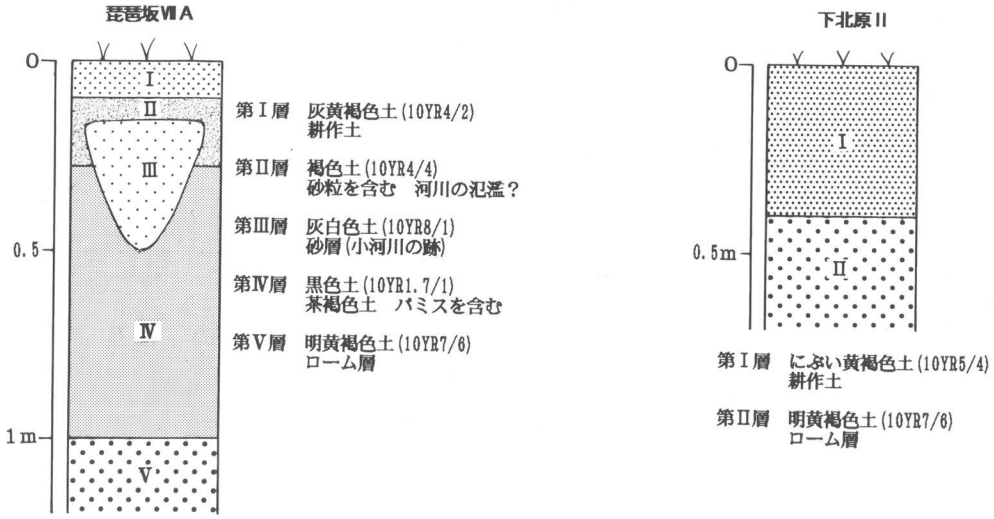
約6,000㎡の広範囲にわたる精密な試掘調査を実施したが、攪乱と思われる落込みが確認されたに過ぎず、立地的には一見、聖原遺跡と大差がないと考えられる場所に原始・古代の人々が生活域として利用しなかったことが判明し、今後の原始・古代における生活空間の立地条件を研究するうえで多大な成果が上がったものと考えられる。



琵琶湖遺跡ⅦA　トレンチ設定図

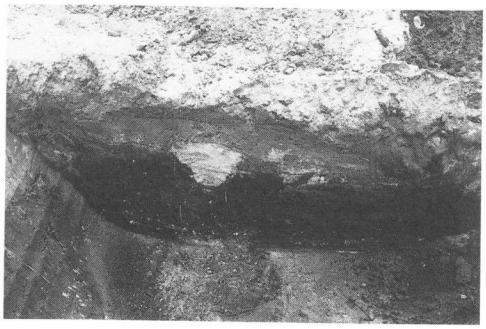


下北原遺跡　トレンチ設定図



琵琶坂遺跡ⅦA地点・下北原遺跡基本土層模式図

琵琶坂遺跡ⅦAトレンチ（南方から）



琵琶坂遺跡ⅦA土層断面

下北原Ⅱトレンチ（南西から）

下北原Ⅱトレンチ（南西から）

枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡ⅦB地点

所　在　地　佐久市大字岩村田
調査委託者　長野県立北佐久農業高校
開発事業　中庭公園整備事業
調査期間　平成２年７月２日
調査面積　64㎡(640㎡)
調査担当者　高村博文

経過と立地

琵琶坂遺跡Ⅶは、佐久市岩村田枇杷坂遺跡群内に位置し、標高は717～720mを測る。昭和53年度プール建設、昭和55年度園芸学習棟建設及び体育施設、昭和58年度農業学習棟建設、昭和60年度体育館建設、昭和63年度に自転車置き場新設事業時に調査がなされており、６次にわたっている。

今回、北佐久農業高校創立90周年記念実行委員会による中庭公園整備により遺跡の破壊が余儀なくされる事態となった。

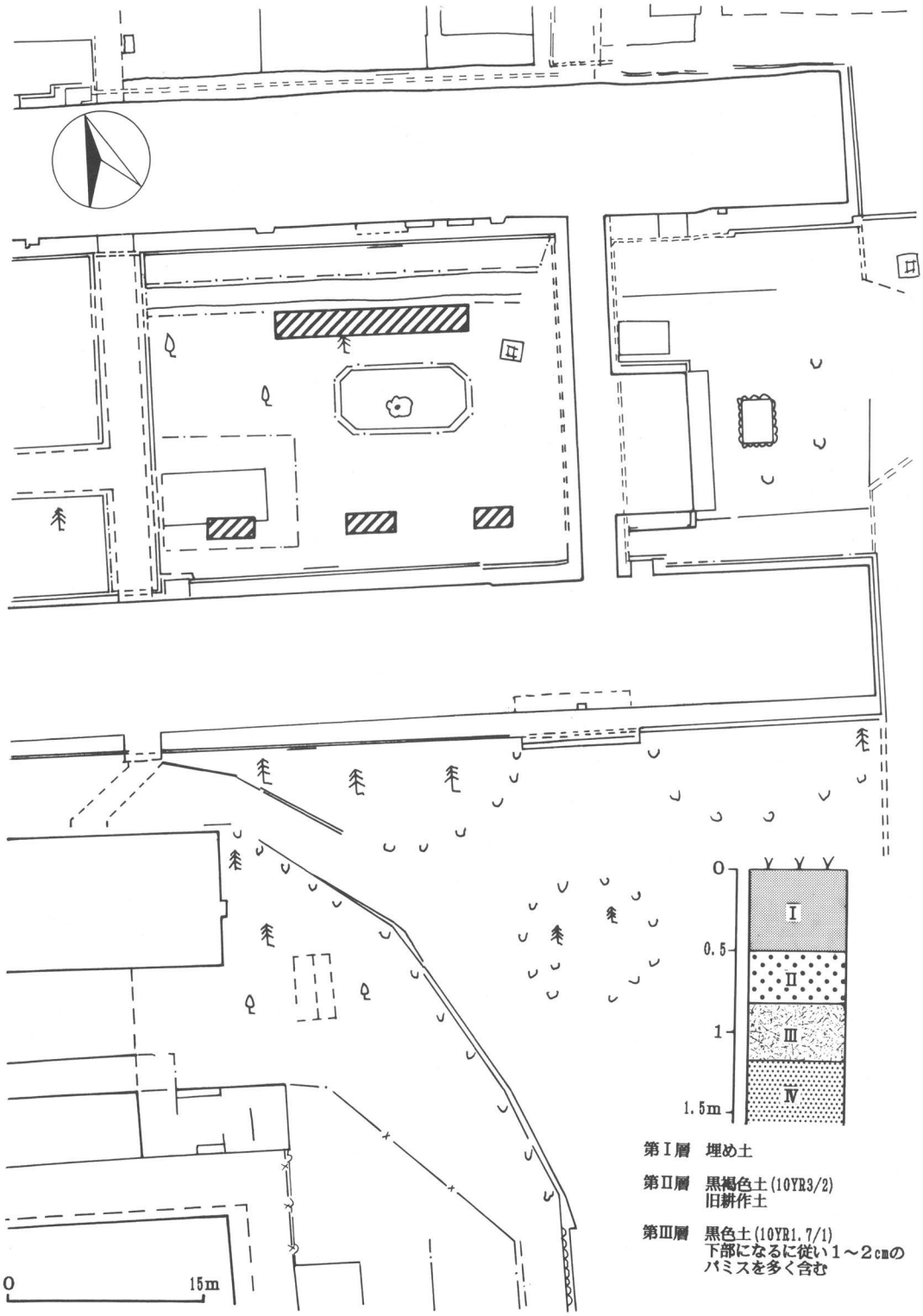
そこで、試掘調査を実施し、遺跡の状況を把握し、遺構の存在が確認された場合は再協議とすることとなった。

調査結果

試掘調査は、障害物が多くて、しかもローム層までの深さが約１m20cmと深く困難だった。

表土から50cmほどは全面に埋め土がなされており、その下から旧地表面が検出された。耕作土は約30cm程あり、その下からは、黒色土が約35cm程堆積し、それを除くとローム層となった。

ローム層まで確認面を掘り下げたが遺構・遺物の検出はみられなかった。



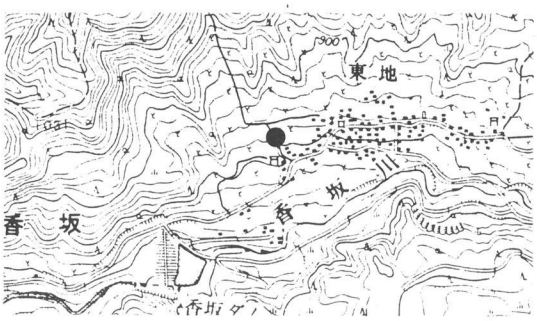
琵琶坂遺跡ⅦB地点トレンチ設定図・基本土層模式図

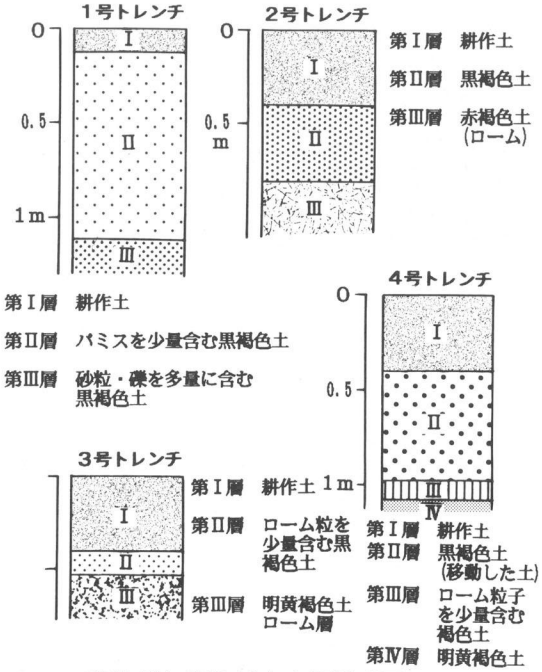
琵琶坂遺跡ⅦB地点近景（東方から）

琵琶坂遺跡ⅦB地点トレンチ（西方から）

東祢ぶた遺跡

所　在　地　佐久市大字香坂1537外
原　因　者　佐久市（土木課）
開発事業　市道37-44号線道路改良
調査期間　平成２年12月18日
開発面積　2,280㎡
調査担当者　助川朋広





東祢ぶた遺跡基本土層模式図

経過と立地

東祢ぶた遺跡は、佐久市大字香坂東地に所在し、東西を山に囲まれ、南傾斜地に立地している。

今回、佐久市土木課が行う、市道37－44号線道路改良工事に伴い遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、立ち会い調査を実施することになった。

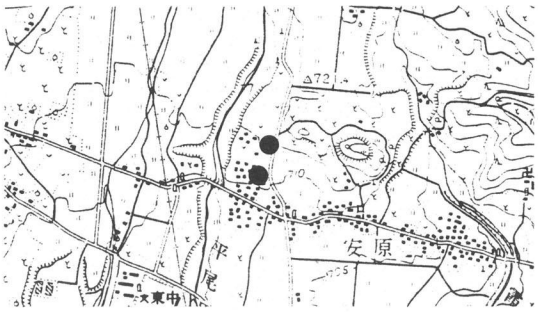
調査結果

周囲の地形及び調査区域の地形（西側は岩で構成された尾根、中央より西側は沢地形、東側は南斜面）の判断により４個所の試掘坑を設定し、西側より１号から４号と命名した。土層の堆積状態は、１・２号試掘坑のセクションに見られるように沢の影響を受けており、２号試掘坑では湿地状態あるいは、水の影響によるのかローム層が変色して赤褐色を呈し、遺構・遺物は認められなかった。地層・地形からの判断により、中央より東側の斜面に存在する可能性が強かったが１・２号試掘坑と同様に、３・４号試掘坑からも遺構・遺物は確認できなかった。

尚、調査前に周囲の表採を行ったが、散布状態は希薄であった。

筒畑遺跡

所　在　地　佐久市大字安原字筒畑821-1外
原　因　者　佐久市（土木課）
開発事業　市道38-36号線道路改良
調査期間　平成２年11月13・26日
開発面積　299.1㎡
調査担当者　高村博文・小林真寿



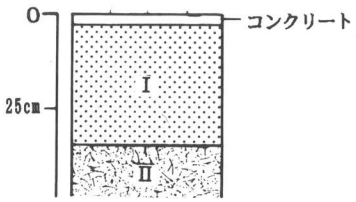
経過と立地

筒畑遺跡は佐久市大字安原地籍の浅間山麓の火山堆積物による平地がいくつかの田切りによって区切られた、標高710m内外の南北に細長い台地状に位置する。遺跡の状況は昭和60年度に佐久埋蔵文化財調査センターが実施した池畑・西御堂遺跡で弥生時代終末から古墳時代初頭の集落址が検出されており、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文時代と平安時代の遺物が採集されている。

今回、佐久市土木課が行う市道38－36号線道路改良事業に伴い立ち会い調査を実施することになった。

調査結果

開発工事は２度にわたり行われ、11月13日は高村が、11月26日は小林が担当した。遺構・遺物の検出はみられなかった。



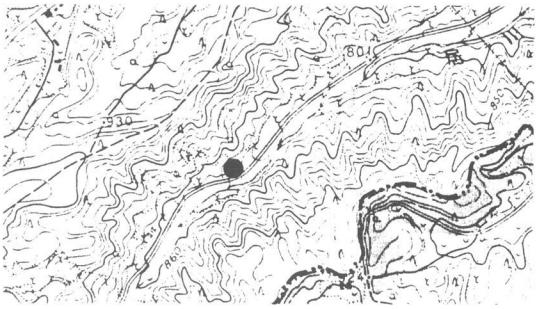
第Ⅰ層　灰黄褐色土(10YR5/2)
舗装の際の埋土

第Ⅱ層　黄橙色土(10YR7/8)
砂質ローム層

筒畑遺跡基本土層模式図

日向小坂遺跡

所　在　地　佐久市大字大沢字日向小坂
原　因　者　佐久建設事務所
開発事業　道路改良
調査期間　平成２年11月12日
開発面積　2,400㎡
調査担当者　高村博文



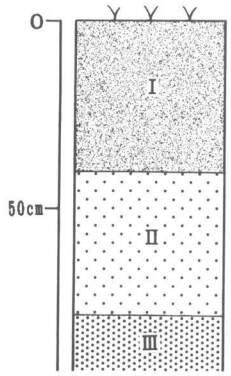
経過と立地

日向小坂遺跡は佐久市大字大沢地籍に所在し、八ケ岳、立科山麓の東麓にあたり、大沢川により形成された沢で、その大沢川の左岸の緩やかな北東傾斜に存在し、標高840m付近を測る。本遺跡は古墳時代から平安時代の遺物が採集されている。

今回、佐久建設事務所による道路改良事業に伴い立ち会い調査を実施することとなった。

調査結果

開発対象地を重機によりトレンチを入れて観察したが、遺構・遺物はみられなかった。



第Ⅰ層　明黄褐色土(10YR7/6)
耕作土

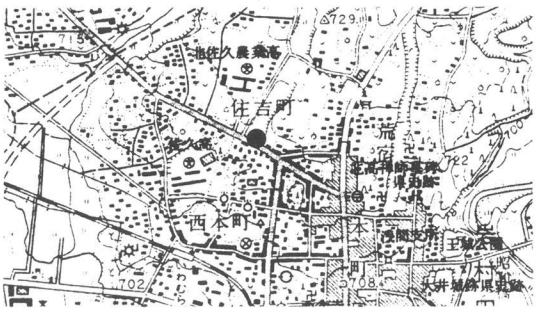
第Ⅱ層　黒褐色土(10YR3/1)
ボソボソしてしまりがない

第Ⅲ層　褐色土(10YR4/4)
頭大からそれ以上の礫が混じるローム層

遺跡近景（東方より）

岩村田遺跡群中久保田遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田
原　因　者　佐久建設事務所
開発事業　道路改良
調査期間　平成３年２月25日
開発面積　1,200㎡
調査担当者　高村博文



経過と立地

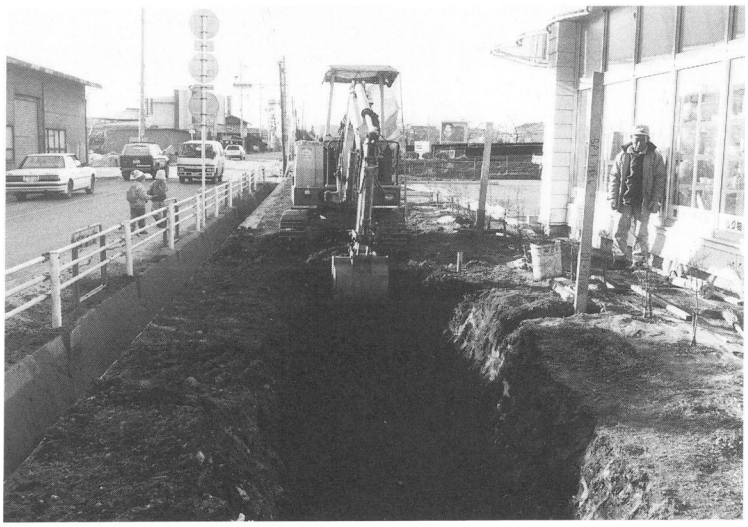
岩村田遺跡群中久保田遺跡は佐久市大字岩村田地籍に所在し、田切り地形が放射状に存在する浅間南麓最末端部に位置し、標高793m付近を測る。

遺跡の状況は、弥生時代から中世にいたる遺物が採集されている。

今回、佐久建設事務所が行う道路改良事業に伴い立ち会い調査を実施することになった。

調査結果

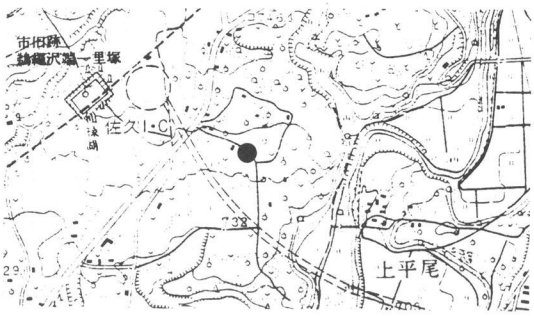
開発対象地は、近年、埋め土がなされた所であり、深さ１m90cmの掘削を行ったが、遺構・遺物はみられなかった。



遺跡掘り下げ状況（東方より）

栗毛坂遺跡群西芝間遺跡

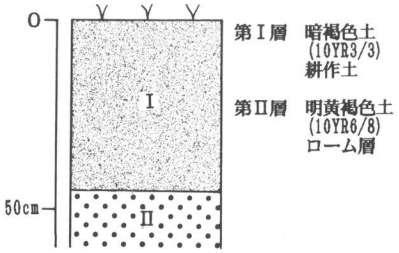
所　在　地　佐久市大字岩村田529
原　因　者　佐久市（土木課）
開発事業　市道2-54号線道路改良
調査期間　平成３年２月７～９日
開発面積　2,250㎡
調査担当者　高村博文



経過と立地

西芝間遺跡は湯川の右岸にあり、田切り地形の台地の東端部に位置し標高735m～739m付近を測る。栗毛坂遺跡群は弥生から平安時代の遺物が採集されている。

今回、佐久市土木課が行う２－54号線道路改良事業に伴い立ち会い調査を実施することとなった。



西芝間遺跡基本土層模式図

調査結果

道路側溝として幅１ｍ10cm、深さ60cmを掘削したが、遺構・遺物はみあたらなかった。

遺跡掘り下げ状況（東方より）

西大久保遺跡群西大久保遺跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字上平尾字塚畑
ケ809-1外

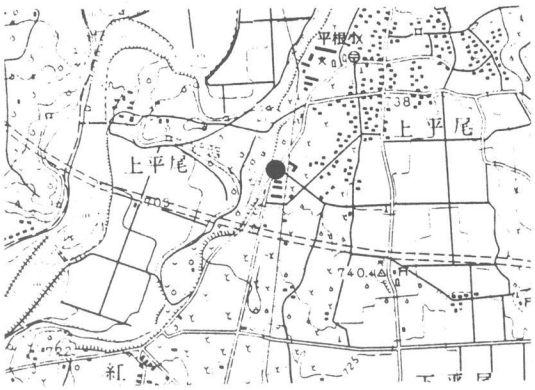
原　因　者　佐久建設事務所

開発事業　県単高速道路改良

調査期間　平成２年５月15日

開発面積　1,600㎡

調査担当者　高村博文



経過と立地

西大久保遺跡群西大久保遺跡Ⅲは佐久市上平尾に所在し、佐久市の北東より屈曲しながら南流する湯川左岸第３段丘にあたる。

本遺跡群内では、昭和61・62年度の２回の調査が実施されているが、現在のところ遺構の存在が確認されていない。

今回、佐久建設事務所が行う、県単高速道路改良事業が、本遺跡内で計画されたため、立ち会い調査を実施し、遺構の存在が確認された場合は再協議をすることとなった。

調査結果

重機により西側拡幅部分約100mにトレンチをいれたが、遺構･遺物の存在がなかったので、埋蔵文化財の保護処置の必要は一応なくなった。但し、工事中、遺物等の出土が認められた場合は、速やかに教育委員会へ連絡くださるよう工事関係者に依頼した。

遺跡掘り下げ状況（北方より）

佐久市埋蔵文化財年報 1

—平成 2 年度—

1992年 3 月31日

編集・発行　佐久市教育委員会

〒384-01　長野県佐久市大字中込３０５６

埋蔵文化財課

〒385　長野県佐久市大字志賀５９５３

ＴＥＬ　０２６７－６８－７３２１

印　刷　　株式会社　櫟 <いちい>